

東アジア人文情報學研究センター
東方學資料叢刊 第 29 冊

和 刻 本 十 選

京都大學人文科學研究所附屬東アジア人文情報學研究センター

2021

東アジア人文情報學研究センター
東方學資料叢刊 第 29 冊

和 刻 本 十 選

京都大學人文科學研究所附屬東アジア人文情報學研究センター

2021

はしがき

漢籍の多くは中國で造本されたいわゆる「唐本」であるが、なかには唐本をもとに朝鮮で翻刻された「朝鮮本」や、日本で翻刻された「和刻本」もある。そうして我が國の、特に江戸時代においては漢籍の「和刻本」が、京都、大坂、江戸の、いわゆる三都において數多く刊行された。本冊子はこの種の「和刻本」のうち、特に京都の書肆から刊行されたものを選んでその書影を掲載した圖録である。

江戸時代には多くの書肆が和刻本漢籍を刊行したが、その多くは複数の書肆の共同出資による刊行であり、しかもその版權が賣買によつて移動するケースもあるので、刊行者の情報を採録する際には特別の注意が必要となる。一般に、和刻本の刊行者として複数の書肆が列記されている場合は、末尾（左側）の者を以て代表させることが慣例となつているが、本研究所の目録一つをとつても、必ずしもすべてについてその原則が貫徹されているわけではない（これには本館に所在する漢籍と、分館に所在する漢籍とがそれぞれ來歴を異にしているため、という事情もある）。

また和刻本漢籍の特徴は、なんとといっても本文に「返り點」や「送り假名」が付いていることであるが、これは當時の人々の漢文の解釋や讀み癖を知るうえでも、きわめて貴重な言語資料となることはいままでもあるまい。

このうち、訓讀の送り假名には「ㄱ(コト)」、「メ(シテ)」、「ㄱ(トモ)」などの合字が多く用いられている。私たちの世代にはもはや縁遠くなった忘れられた文字であるが、これらも今や大抵コンピュータの畫面上で入力することができることには、うたた隔世の感を禁じることができない。

本書に收めた和刻本の刊行者は、あらまし次頁のとおりであるが、詳しくは『京都書肆變遷史』（京都府書店商業組合、一九九四年）などを参照していただきたい。藏書印については、奥田三角（二七〇三〜一七八三）の印や、内野皎亭（一八七三〜一九三四）の印、などが目を引く。

なお、『標題註疏小學集成』は、漢籍の朝鮮本（鑄字本）を日本で翻刻した面白い事例である。

令和三年四月

漢籍を見る會 代表 矢木 毅

（京都書肆）

二條通柳馬場西へ入ル町

丸屋市兵衛

五條通高倉東江入町

北村四郎兵衛

京師二條街

風月堂莊左衛門

京都三通通堺町

出雲寺松栢堂

二條高倉東江入町

林喜兵衛

寺町二條下ル町

秋田屋藤兵衛

二條柳馬場東江入ル町

安田千助

間之町御池上ル町

林權兵衛

堀川通高辻上ル町

唐本屋吉左衛門

室町鯉山町

田中清左衛門

目次

| | |
|--------------------------------|-----|
| 一 尚書十三卷（寛延四年 風月莊左衛門等 刊本） | 一頁 |
| 二 遊名山記四卷（文政九年 吉田屋治兵衛等 刊本） | 九頁 |
| 三 閱史約書二卷（寛政五年 北村四郎兵衛 刊本） | 一八頁 |
| 四 標題註疏小學集成十卷（萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本） | 二七頁 |
| 五 童子習一卷（享保十年 風月堂莊左衛門 刊本） | 三五頁 |
| 六 朱子社倉法一卷（文化三年 朝倉儀助等 補刻） | 四一頁 |
| 七 昆蟲草木畧二卷（天明五年 北村四郎兵衛等 刊本） | 四八頁 |
| 八 文海披沙八卷（寶曆九年 唐本屋吉左衛門等 刊本） | 五三頁 |
| 九 陸象山先生集要七卷（田中清左衛門 刊本） | 六〇頁 |
| 十 新鐫註釋出像皇明千家詩四卷（貞享二年 淺野久兵衛 刊本） | 七六頁 |

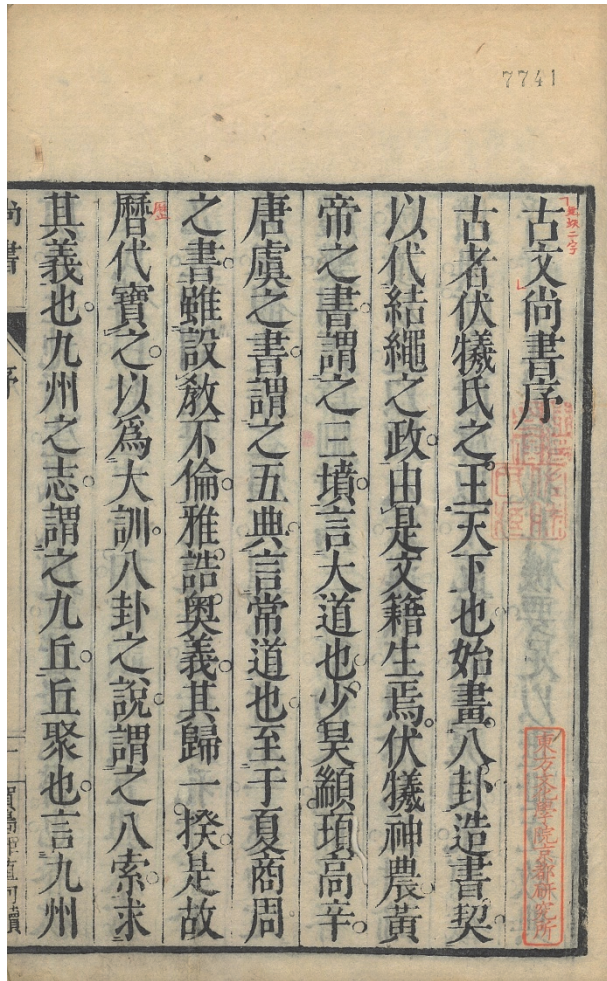
經部 書類 前漢

尚書十三卷

漢 孔安國 傳

寬延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6册

「藤澤印信」白文方印
「佐藤氏臧」朱文方印



經部 書類 前漢

尚書十三卷

漢 孔安國 傳

寬延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6冊

*古文尚書序

所有土地所生風氣所宜皆聚此書也春秋
左氏傳曰楚左史倚相能讀三墳五典八索
九丘卽謂上世帝王遺書也先君孔子生於
周末覩史籍之煩文懼覽之者不一遂乃定
禮樂明舊章刪詩爲三百篇約史記而修春
秋讚易道以黜八索述職方以除九丘討論
墳典斷自唐虞以下訖于周芟夷煩亂翦截
浮辭舉其宏綱撮其機要足以垂世立教典

經部 書類 前漢

尚書十三卷

漢 孔安國 傳

寬延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6册

*古文尚書序

談訓誥誓命之文凡百篇所以恢弘至道示人主以軌範也帝王之制坦然明白可舉而行二千之徒並受其義及秦始皇滅先代典籍焚書坑儒天下學士逃難解散我先人用藏其家書于屋摩漢室龍興開設學校旁求儒雅以闡大猷濟南伏生年過九十失其本經口以傳授裁二十餘篇以其上古之書謂之尚書百篇之義世莫得聞至魯共王好治

宮室壞孔子舊宅以廣其居於壁中得先人所藏古文虞夏商周之書及傳論語孝經皆科斗文字王又升孔子堂開金石絲竹之音乃不壞宅悉以書還孔氏科斗書廢已久時人無能知者以所聞伏生之書考論文義定其可知者為隸古定更以竹簡寫之增多伏生二十五篇伏生又以舜典合於堯典益稷合於皋陶謨盤庚二篇合為一康王之誥合

於顧命復出此篇并序凡五十九篇為四十六卷其餘錯亂摩滅弗可復知悉上送官藏之書府以待能者承詔為五十九篇作傳於是遂研精覃思博考經籍採摭羣言以立訓傳約又申義敷暢厥旨庶幾有補於將來書序所以為作者之意昭然義見且相附近故引之各冠其篇首定五十八篇既畢會國有巫蠱事經籍迫息用不復以聞傳之子孫

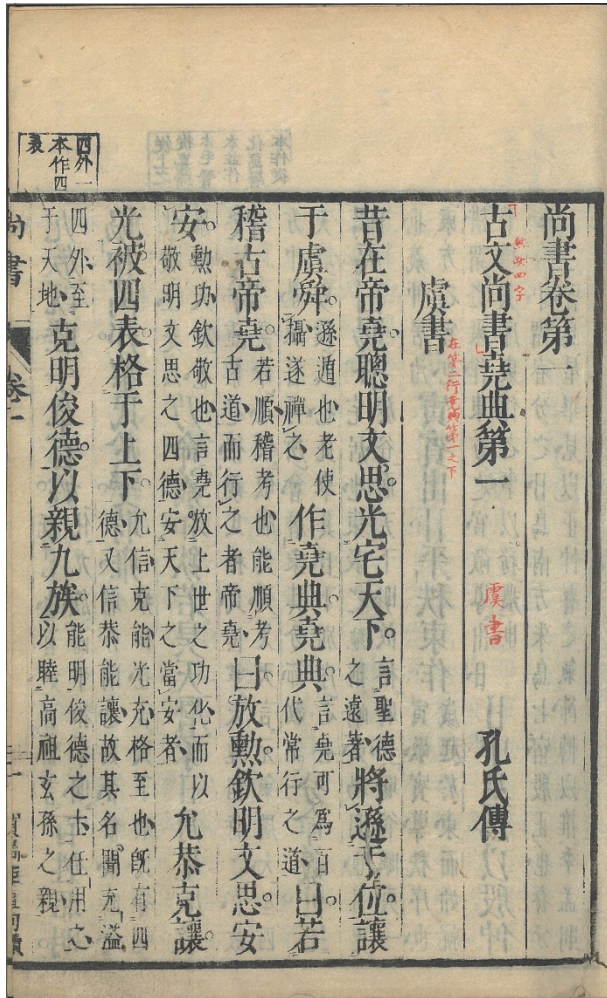
以貽後代若好古博雅君子與我同志亦所不隱也

經部 書類 前漢

尚書十三卷

漢 孔安國 傳

寬延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6册

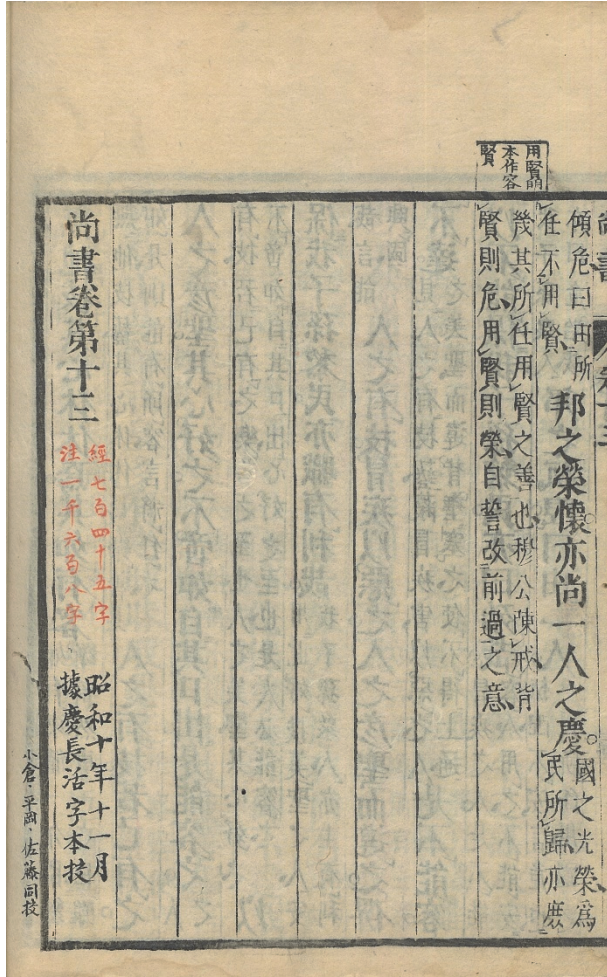


經部 書類 前漢

尚書十三卷

漢 孔安國 傳

寬延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6册



經部 書類 前漢

尚書十三卷

漢 孔安國 傳

寬延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6册

| | | | |
|---------|-------------------------------|-----|---------|
| 博文堂藏板目錄 | | | |
| 古文孝經 | <small>漢孔安國傳 清家藏板</small> | 全二冊 | 南郭先生塔下書 |
| 書經古注 | <small>漢孔安國註</small> | 全一冊 | 弁州四部稿選 |
| 詩經古注 | <small>漢鄭玄箋</small> | 全一冊 | 弁州詩選 |
| 禮記古注 | <small>漢鄭玄注</small> | 全一冊 | 弁州尺牘 |
| 周易古注 | <small>魏王弼注</small> | 全五冊 | 古今尺牘翰海 |
| 歐蕪手簡 | | 全四卷 | 穆天子傳 |
| 韓非子全書 | | 全一冊 | 漢武內傳 |
| 醫斷 | <small>吉益先生門人鶴元逸著</small> | 全一冊 | 飛燕外傳 |
| | | | 合列 |
| | | | 同上 |

*博文堂藏板目錄

經部 書類 前漢

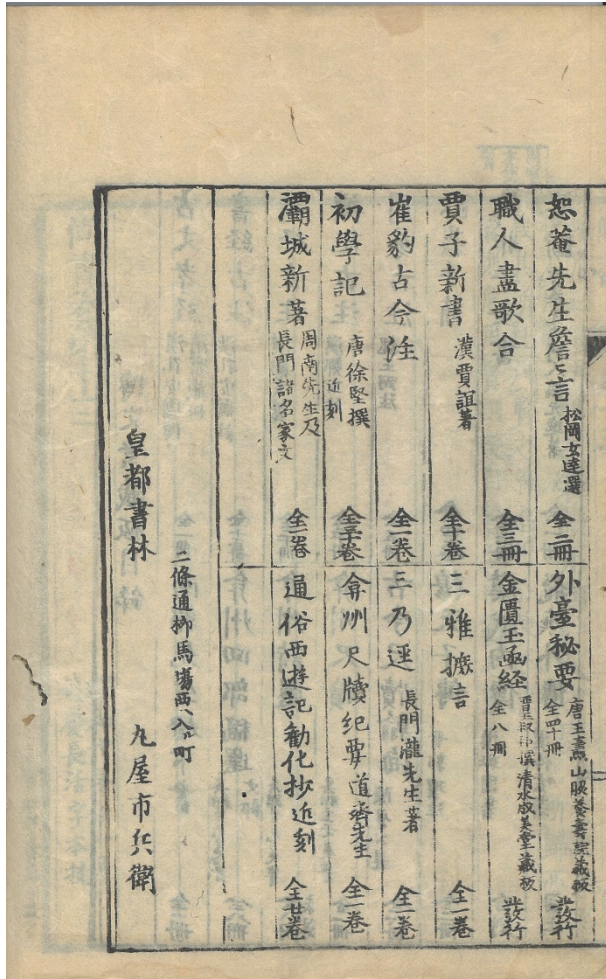
尚書十三卷

漢 孔安國傳

寛延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6冊

*二條通柳馬場西へ入ル町

皇都書林 丸屋市兵衛



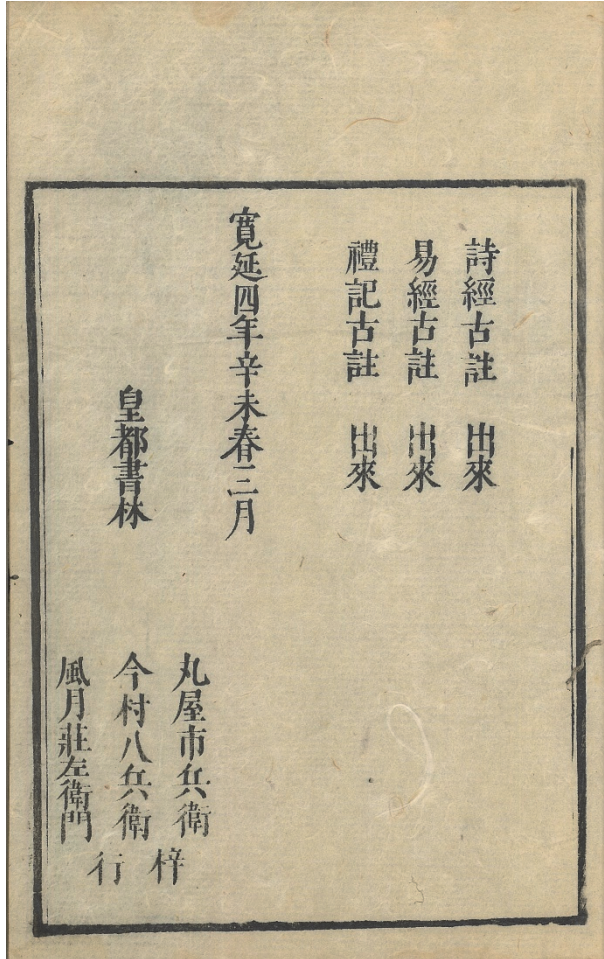
經部 書類 前漢

尚書十三卷

漢 孔安國 傳

寬延四年 皇都書林風月莊左衛門等 刊本 6册

*寬延四年辛未（二七五二）

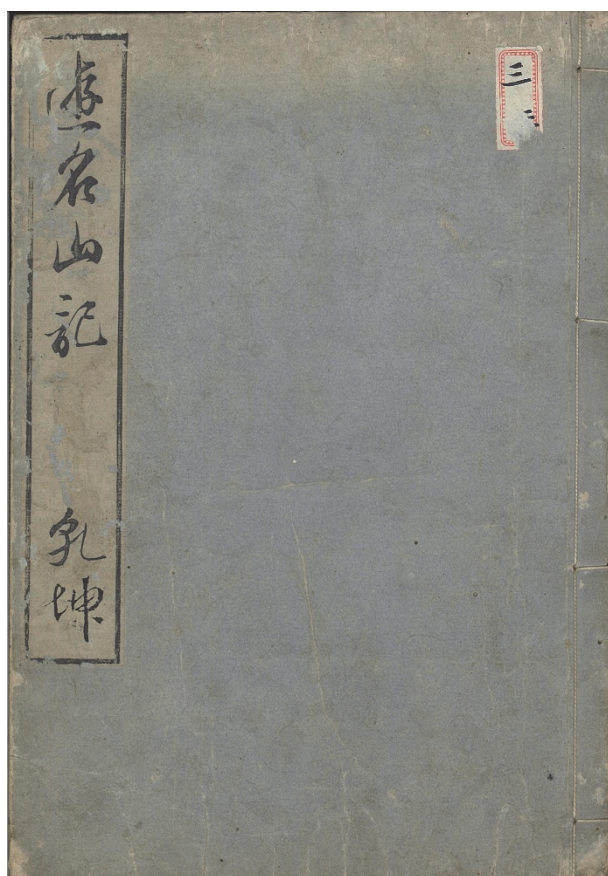


史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黒田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1册



* 文政九年（二八二六）

* 遊名山記 乾坤（題簽）

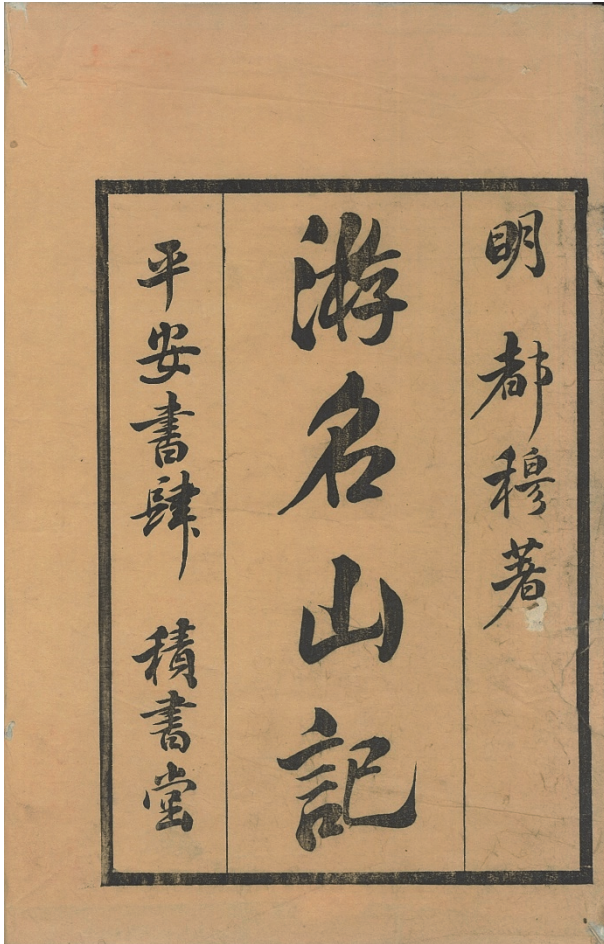
史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黒田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1册

*平安書肆 積書堂



史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

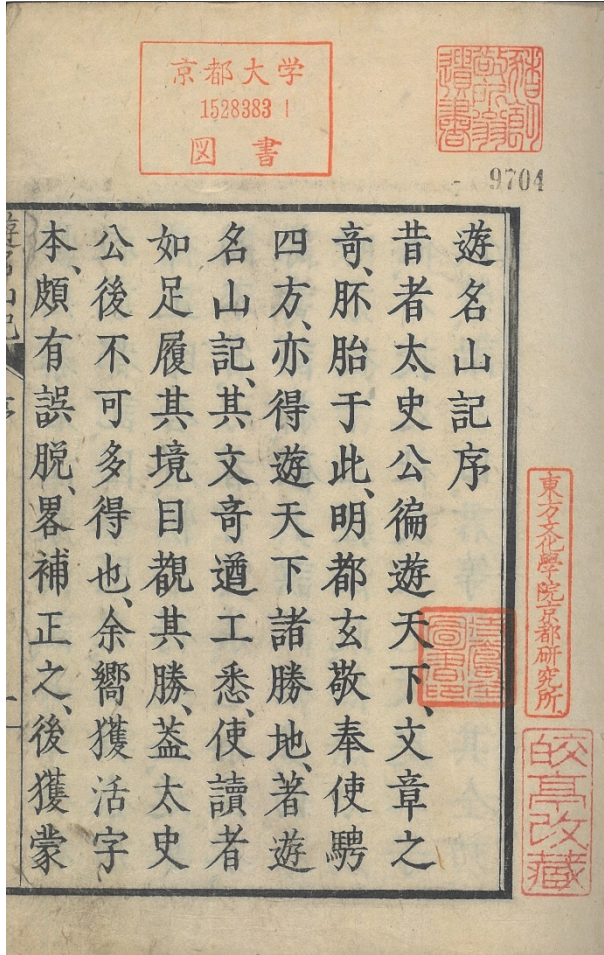
明 都穆 撰 日本 黑田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1册

「猪飼敬所翁遺書」朱文方印

「待鶯堂圖書印」朱文方印

「皎亭改藏」朱文長方印



遊名山記序

昔者太史公徧遊天下、文章之
 奇、胚胎于此、明都玄敬奉使騁
 四方、亦得遊天下諸勝地、著遊
 名山記、其文奇迺工悉、使讀者
 如足履其境、目覩其勝、蓋太史
 公後不可多得也、余嚮獲活字
 本、頗有誤脫、畧補正之、後獲蒙

史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黑田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1册

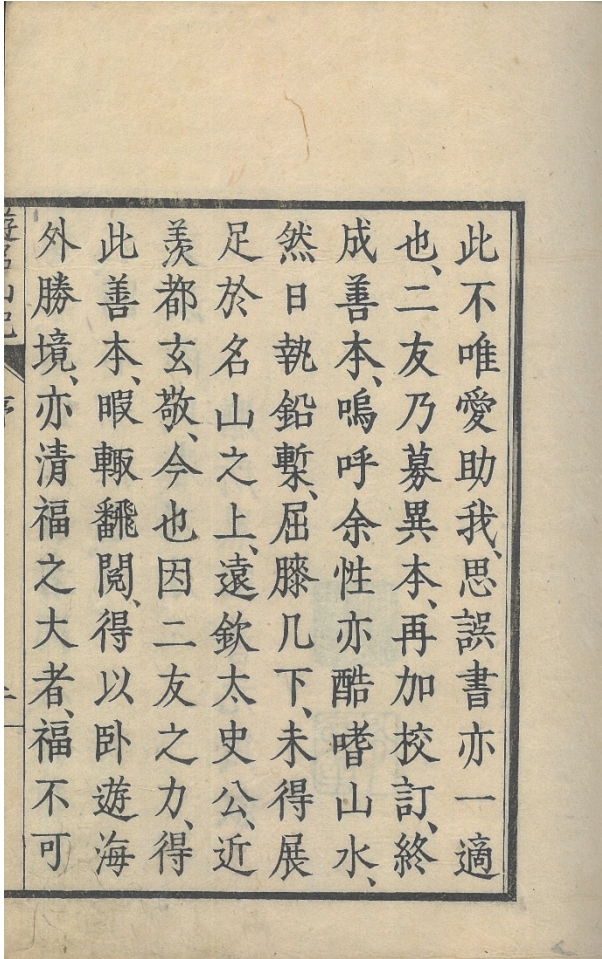
慎所纂名山巖洞記、其中往往
收載都記、因參照之、多與余所
補正暗合者、恨不得其全、遂東
閣不省、乃者書賈某、乞余校本、
謀壽諸梓、顧其誤訛猶多、而余
時方校十三經注疏、無餘力及
他、乃授之社友三宅大庭二子
代勞、謂之曰、君等幸收其全功、

史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黑田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1册



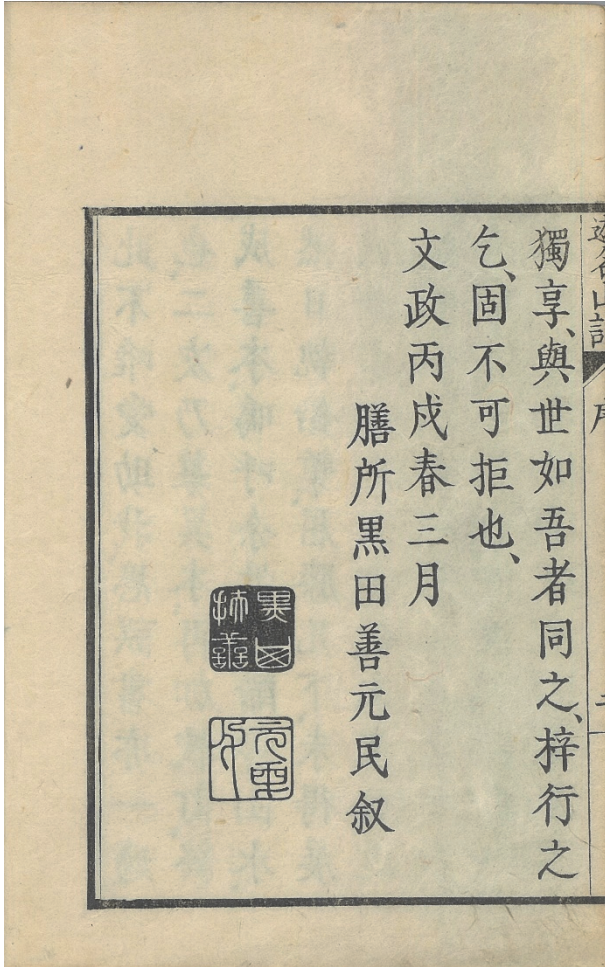
史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黑田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1册

「黑田扶善」「元民氏」

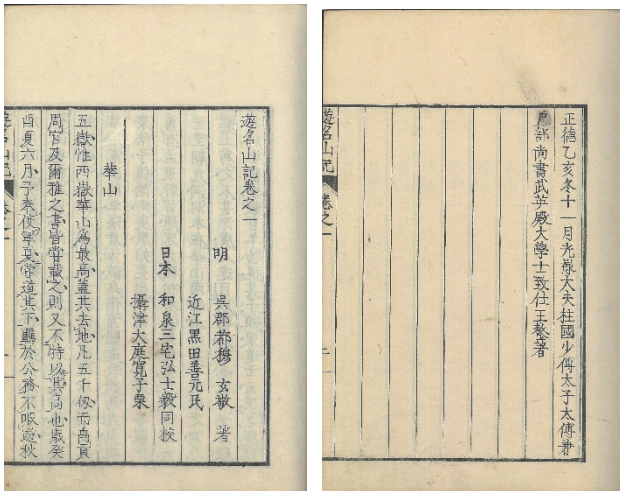
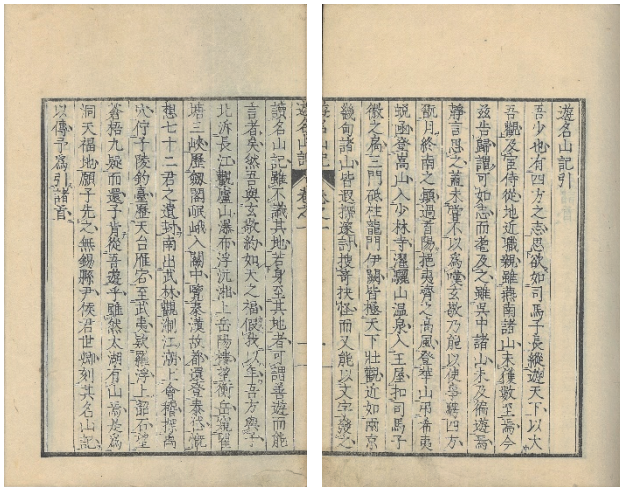


史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黒田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1冊

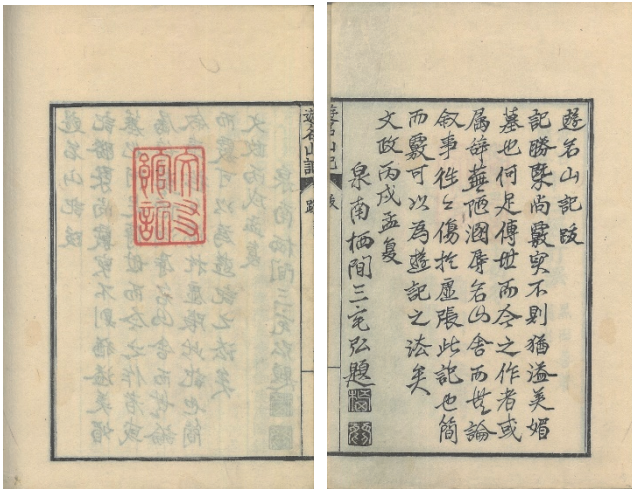
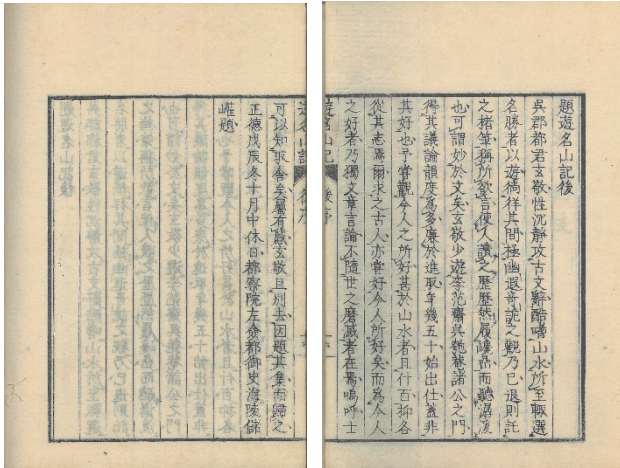


史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黒田善 等校

文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1冊



*題遊名山記後 (儲燾)

*遊名山記跋 (三宅弘) 「栖」「閒」模刻

「文友館記」朱文長方印

史部 地理類 名勝之屬

遊名山記四卷

明 都穆 撰 日本 黒田善 等校

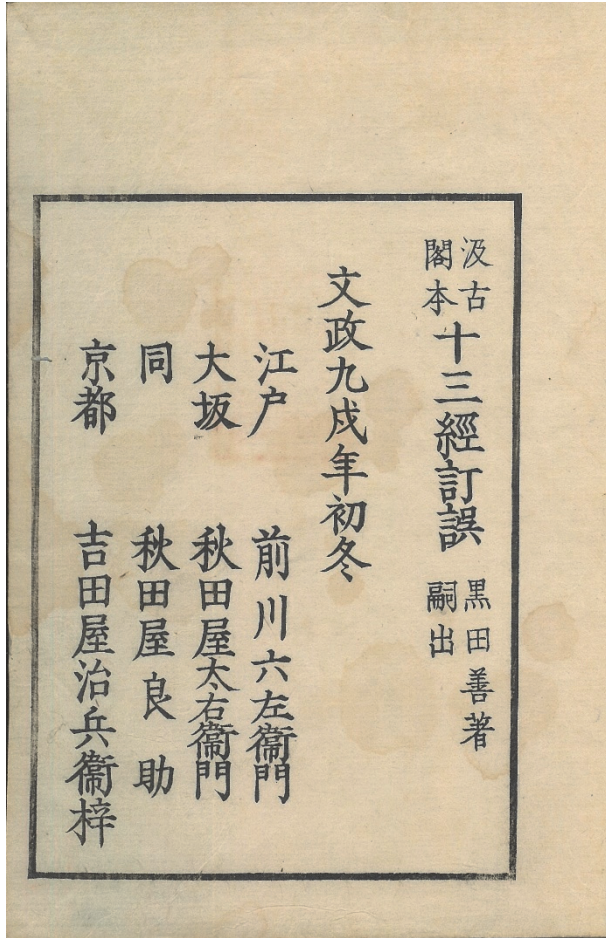
文政九年 京都吉田屋治兵衛等 刊本 1册

*前川六左衛門

*秋田屋太右衛門

*秋田屋良助

*吉田屋治兵衛



史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛
刊本 松本氏愚山書屋藏板 1冊



*寬政五年（二七九三）

史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

刊本 松本氏愚山書屋藏板 1冊

「愚山書屋藏板」朱文長方印



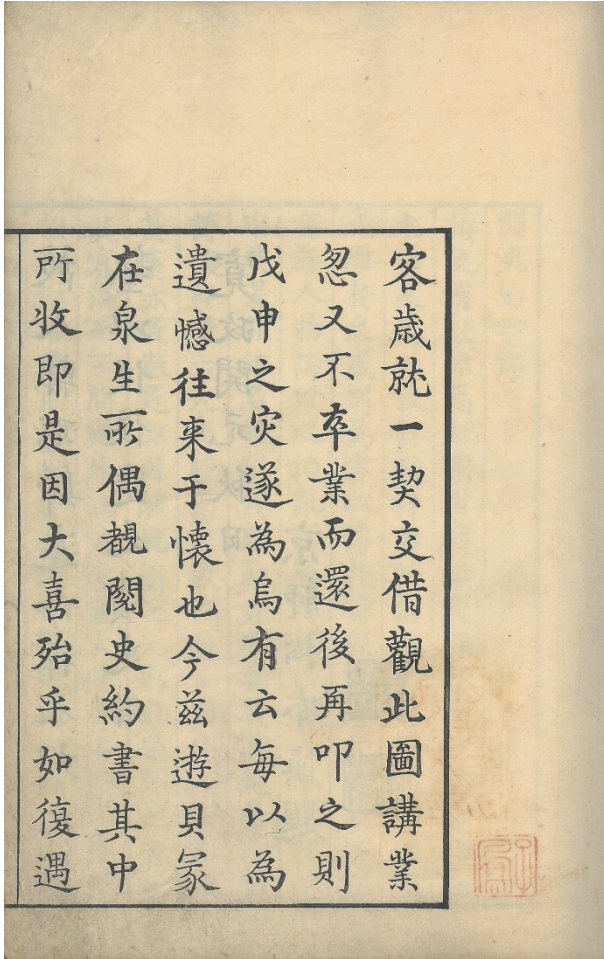
史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

刊本 松本氏愚山書屋藏板 1册

「子鳳」朱文方印



史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

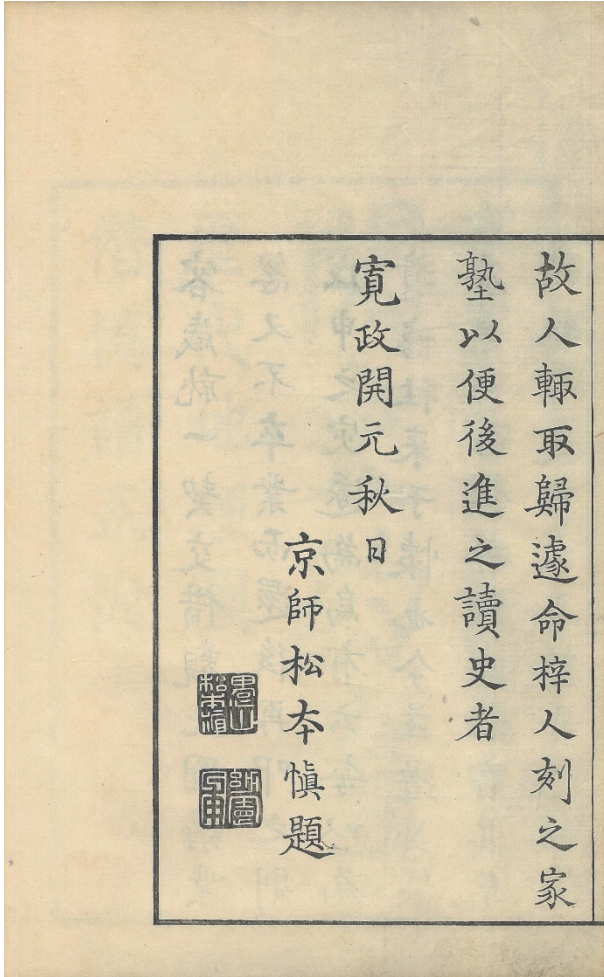
明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

刊本 松本氏愚山書屋藏板 1冊

「愚山松本慎」印影模刻

「幼憲甫」印影模刻

* 松本愚山（一七五五～一八三四）



史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

刊本 松本氏愚山書屋藏板 1册

閱史約書序
 讀史有數家焉經濟者觀世運操觚家攻文章稽析之士更為之攷訂數評名物制度之異同體而編之或附於史或別為書以傳於時數家者此為最下然商評人物論世之治亂可否雖備夫婦人率然可以中其是非部名物制度則非見其書履其地若攻訂諄復即學士大夫曉焉不敢以道則妄人而已故其事亦最難是以因陋就簡之大內勅歲月之功蓋其原淺而不開難外託論書觀大意之名以文其陳綴拾姓名遺事皆閱言高論云爾斯其人恥文道古

嘗選徽事將毋有介然者乎苟則言高論而中不免於介然也則究說安穰巴古之工此業者社征南之於左氏傳小司馬之於遷史瀕字籍之於漢書胡身之於資治通鑑皆附於史者也杜斌公通典鄭夫潛遺志馬韻陽通考及歷代會要諸書皆別為書以傳者也若太史公既作紀傳復為年表溫公既作通鑑復有舉要日鐘危年之編皆已觀之又明之已縱之復衡之已書之又圖之觀夫載記廣遠知附神聖當其號聘泥濘惟恐不多及束書而念之楚香燕無幾則安知二君子者非自憎其心力之勤歟欲復觀

以自娛也嗚呼中人以下言得終記閱之匪難則豈不為費哉余有莫嬰讀書歡喜從父兄曾難往事或鈔錄段載古文詞則誦之不知端委誦終亦不樂地早夕簿籍名士交游不能多得書猶長後念此生不能終已乃輟父兄所與衣食時文之費別市書十年以來不盈數篋然皆儒生習見史書正文而已間從友生借覽記博通之書而繕錄不專加以小試勞半世所謂筆業者好觀之日月且而更不敢不習貧賤則雖之肥增其遺忘讀書無定地童子荷藜為歎而而借友生之書度歲月已久輒舉心所嘗者

以細書法全書旁叙三謝竟事體之既久事類錯出無所會統雖予亦復若之頃長及村居因以國朝與應附記各代竟紙所容未盡異字殊使簡閱已又列書各代幣圖方域及官制及譜系之尤難明者古語之舊有訓故者彙名之重音味嗜賸覽者次第為百許蓋以閱史約書名之約者不盡之詞也口以快翁而多務數選從善遺忘如予者也若夫都邑代遠而險塞常在權輿相維各足以治亂則變生莫可紀極古文奇字既有自來約畧而觀之是聞人博之歸而後生博之讓也友人謂予是書先出必有售者易

史部 史評類 考訂之屬

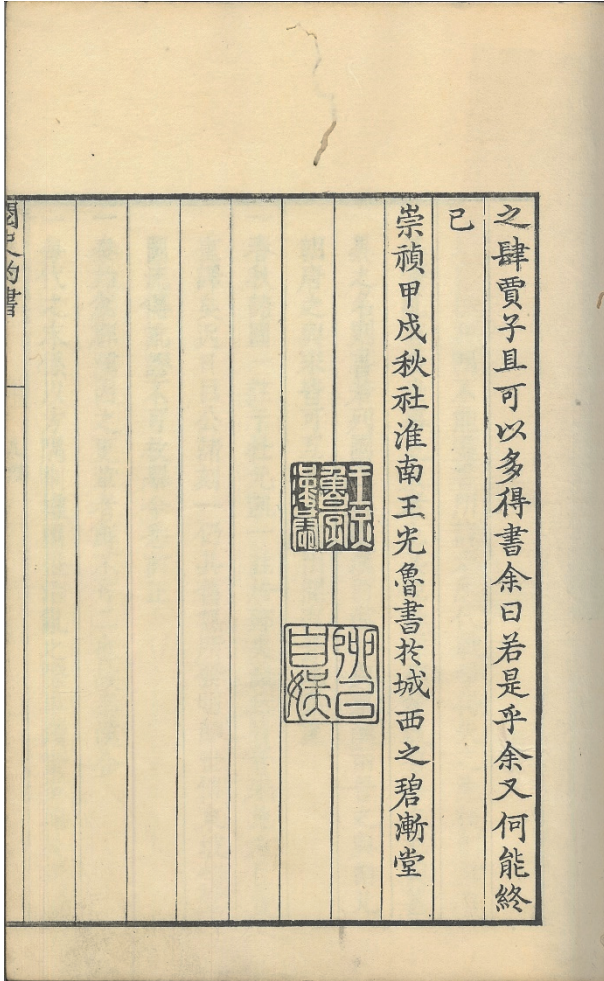
閱史約書二卷

明 王光魯撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

刊本 松本氏愚山書屋藏板 1册

* 「王光魯字漢恭」印影模刻

* 「聊以自娛」印影模刻

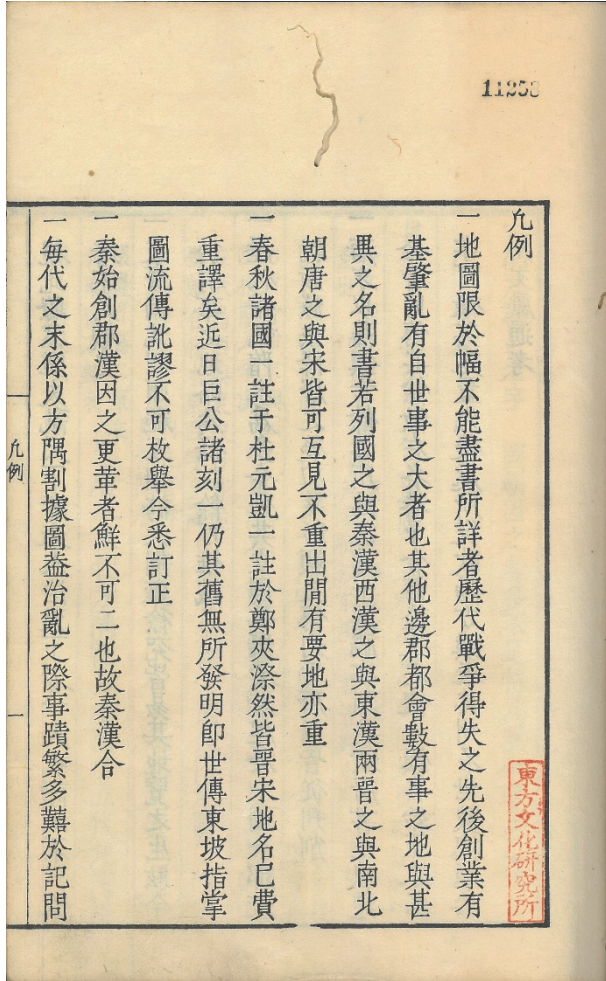


史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

刊本 松本氏愚山書屋藏板 1册



凡例

一地圖限於幅不能盡書所詳者歷代戰爭得失之先後創業有
基肇亂有自世事之大者也其他邊郡都會數有事之地與甚
異之名則書若列國之與秦漢西漢之與東漢兩晉之與南北
朝唐之與宋皆可互見不重出間有要地亦重

一春秋諸國一註于杜元凱一註於鄭夾漈然皆晉宋地名已費
重譯矣近日巨公諸刻一仍其舊無所發明卽世傳東坡指掌
圖流傳訛謬不可枚舉今悉訂正

一秦始創郡漢因之更革者鮮不可二也故秦漢合

一每代之末係以方隅割據圖益治亂之際事蹟繁多難於記問

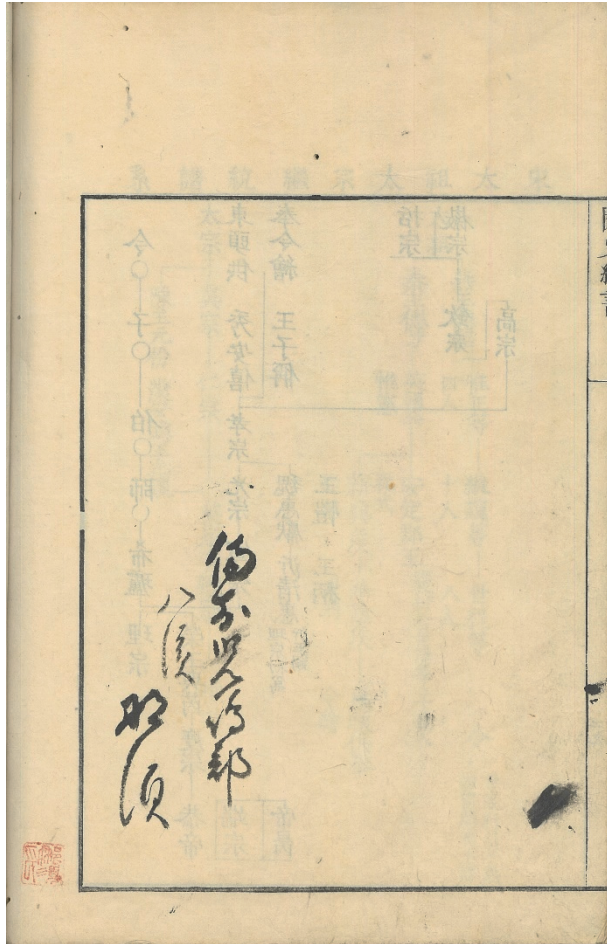
九例

史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

刊本 松本氏愚山書屋藏板 1册



「那須印」朱文小方印

史部 史評類 考訂之屬

閱史約書二卷

明 王光魯 撰 寬政五年 京都書林北村四郎兵衛

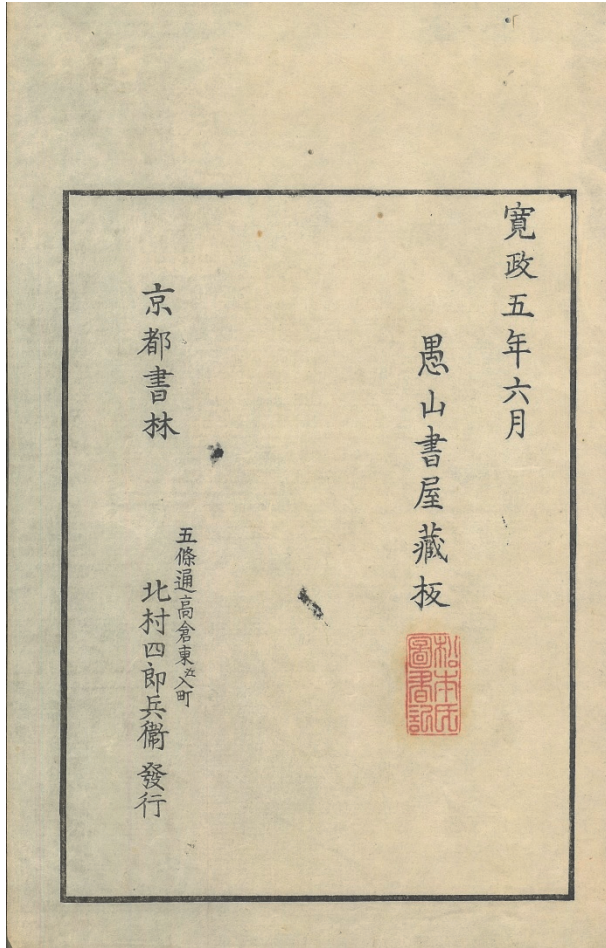
刊本 松本氏愚山書屋藏板 1冊

「松本氏圖書記」朱文長方印

*寬政五年（一七九三）

*五條通高倉東江入町

北村四郎兵衛



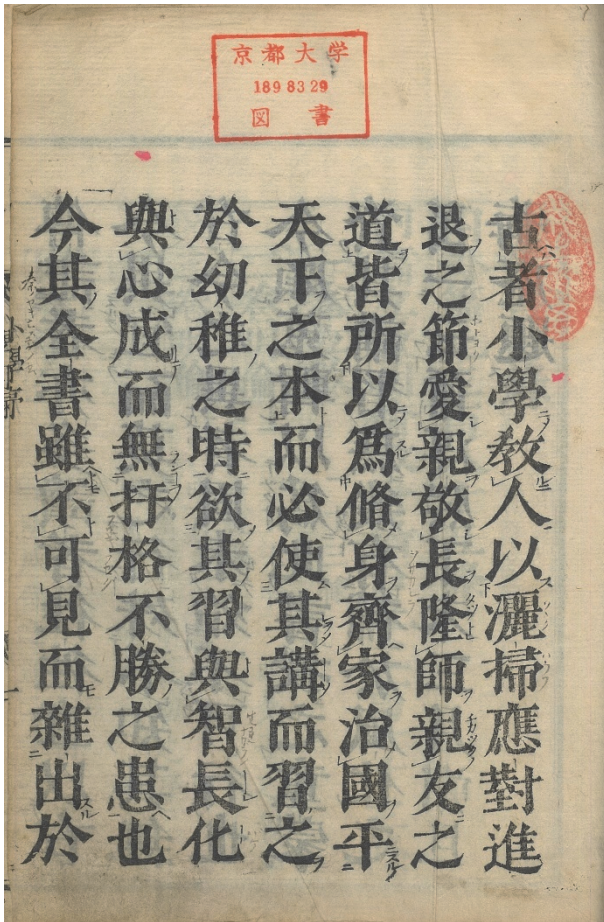
子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汝 校

萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本 6册

「成□□」白文長圓印
*序（朱熹）



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

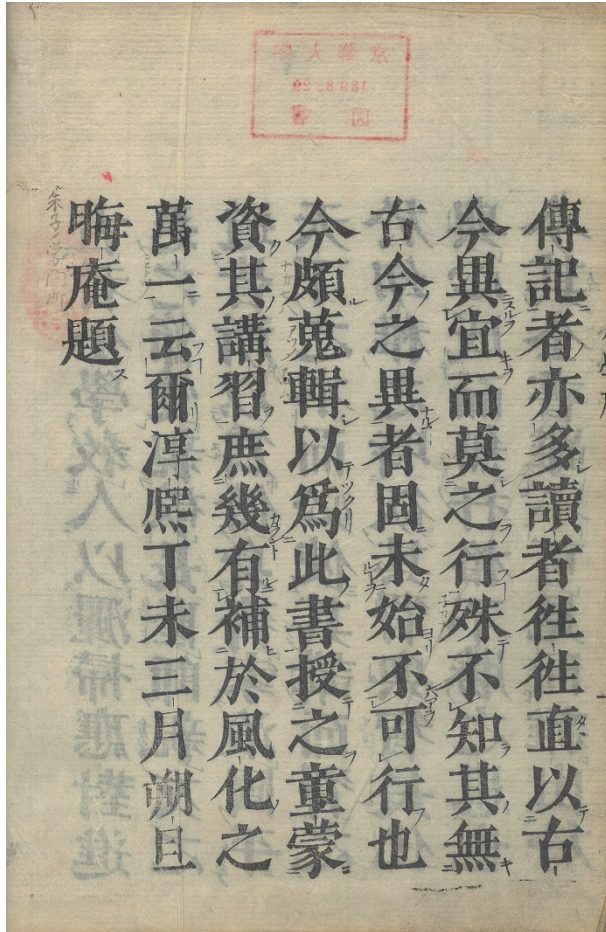
標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汝 校

萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本

6册

*序 (朱熹)

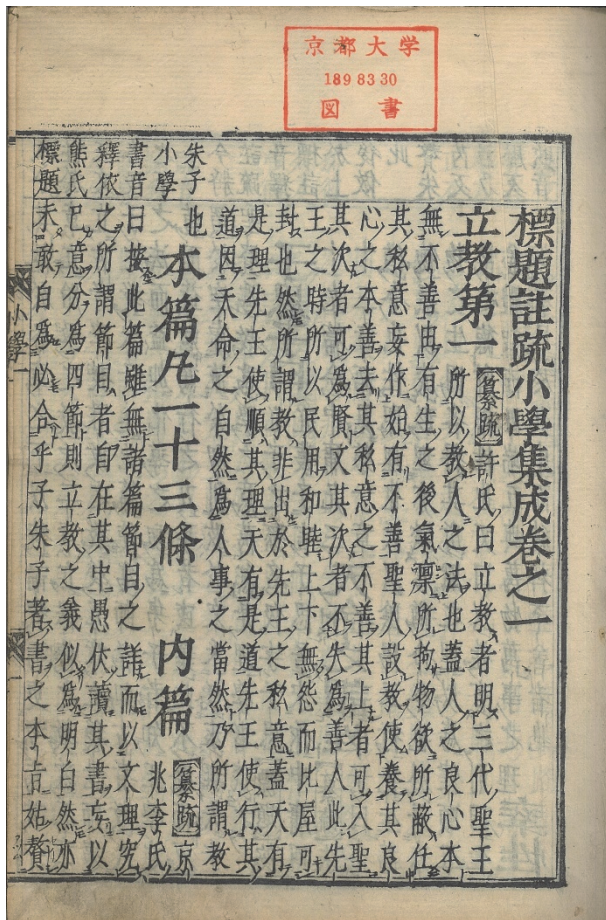


子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汶 校

萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本 6册



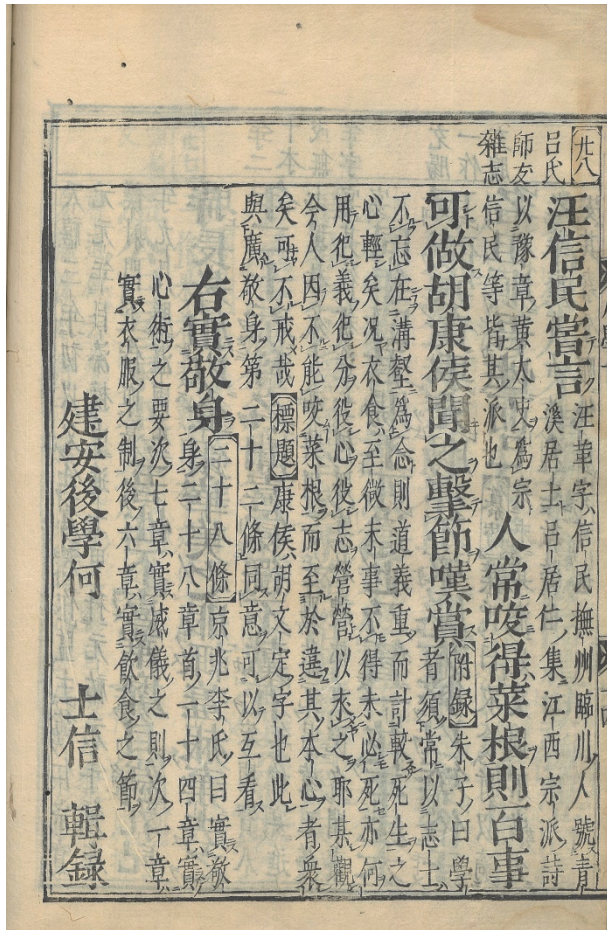
子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汶 校

萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本 6册

*建安後學何士信輯錄



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

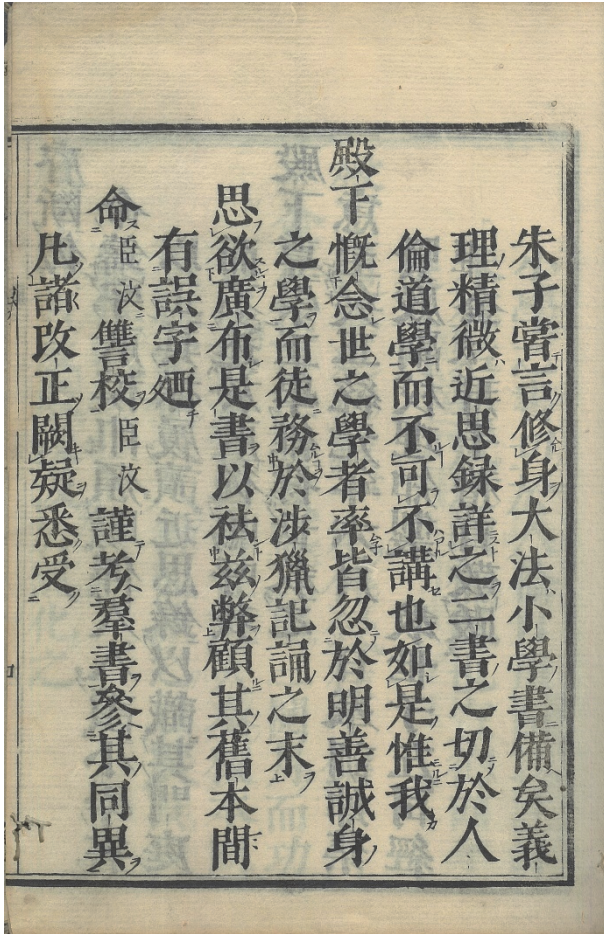
標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汶 校

萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本

6册

*跋 (金汶)



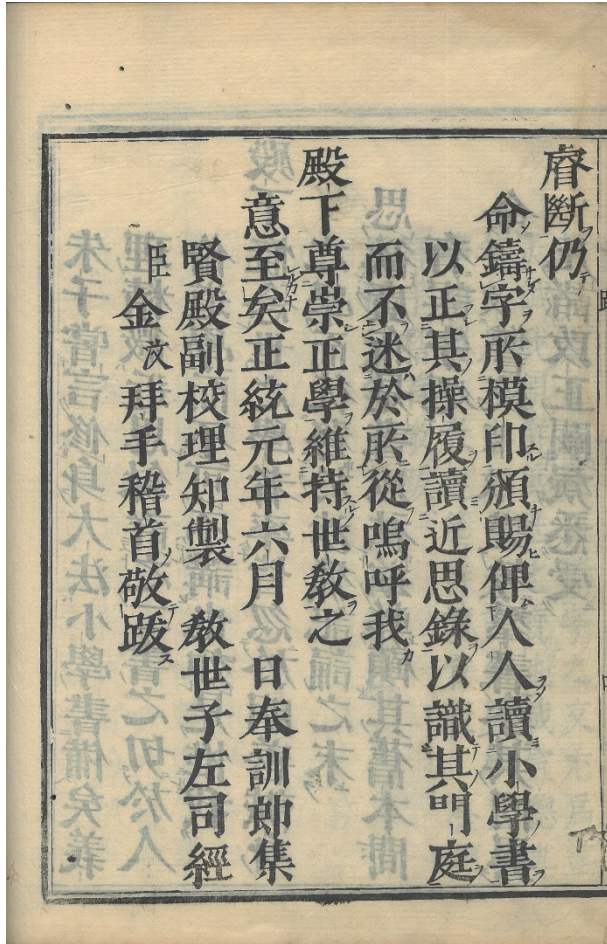
子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汶 校

萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本 6册

*跋 (金汶)



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

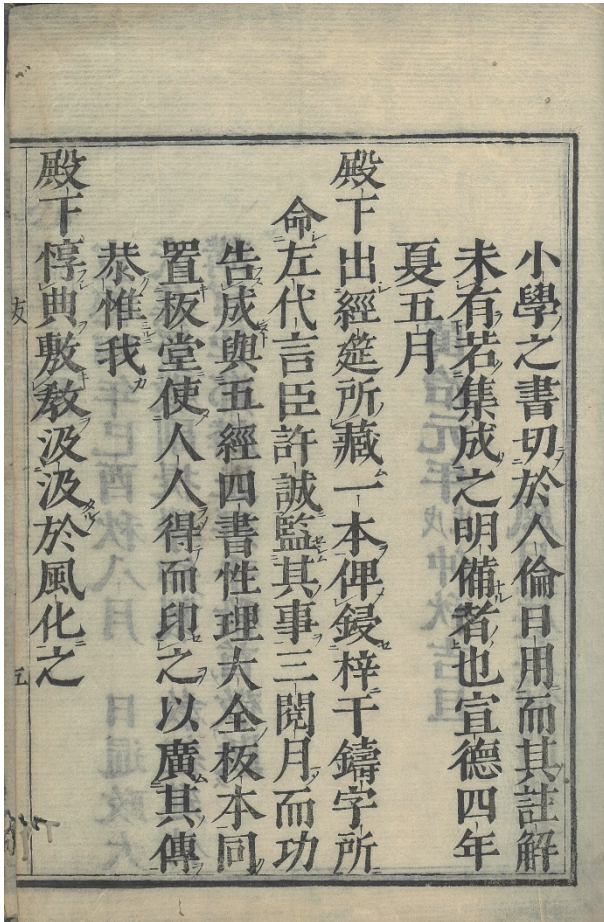
標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汝 校

萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本

6册

*跋 (鄭麟趾)



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

標題註疏小學集成十卷 首一卷

元 何士信 輯 朝鮮 金汝 校

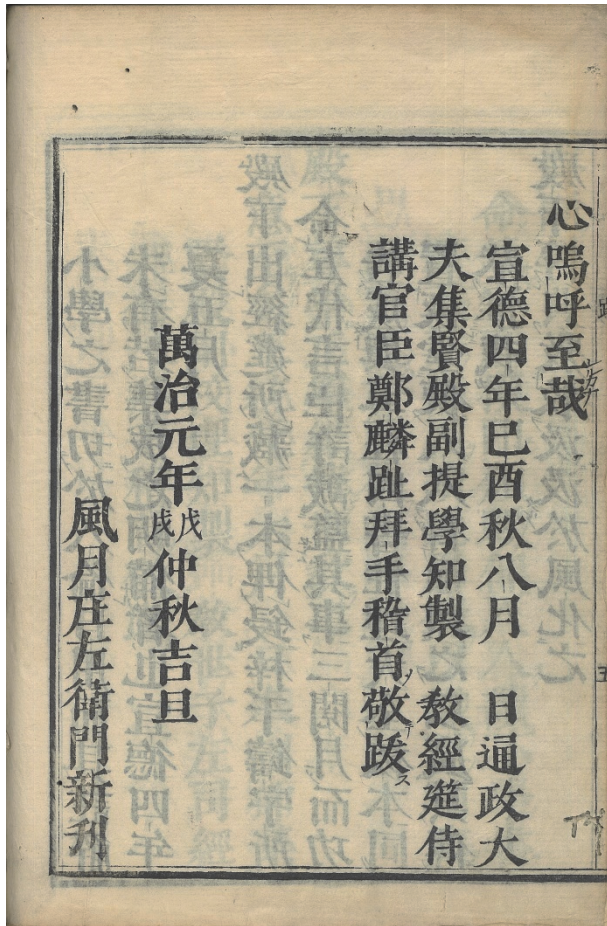
萬治元年 京都風月庄左衛門 刊本

6册

*跋 (鄭麟趾)

*萬治元年 (二六五八)

風月庄左衛門



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

童子習一卷

明 朱逢吉 撰 日本 淺見文次郎 訓點

享保十年 京師風月堂莊左衛門 刊本 1册



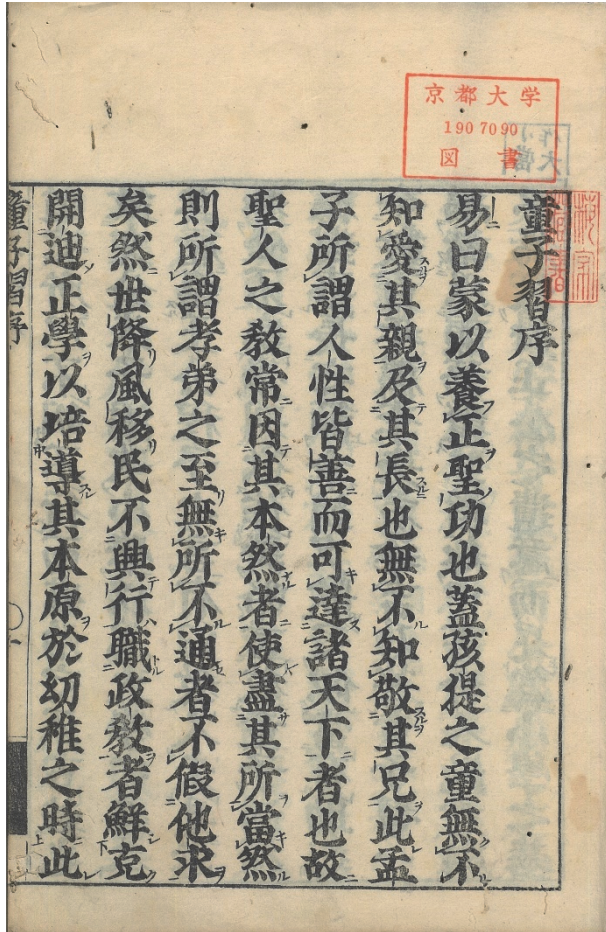
子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

童子習一卷

明 朱逢吉 撰 日本 淺見文次郎 訓點

享保十年 京師風月堂莊左衛門 刊本 1册

「梅家藏書」朱文長方印



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

童子習一卷

明 朱逢吉 撰 日本 淺見文次郎 訓點

享保十年 京師風月堂莊左衛門 刊本 1册

*童子習序 (周子治)

道之所以不明不行而盛治之不及也若也
 故文公朱子編次小學以為大學之基本
 其歷選正公程子之言有曰教人未見意
 趣必不樂學別欲作詩略言教童子洒掃
 應對事長之節令朝夕歌之似當有助迄
 今數百年猶李朱君逢吉乃著童子習一
 編著以韻語發其指趣中書舍人鮑君麟
 以為深得正公之遺意而足為小學之基

小當
 作大

子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

童子習一卷

明 朱逢吉 撰 日本 淺見文次郎 訓點

享保十年 京師風月堂莊左衛門 刊本 1册

*童子習序 (周子治)

本於是建安郡守宣城內公麟屬之建陽
 令吳興潘公睿錢梓以行而俾予為序嗚
 呼若數公者又可謂恐闕知字致治之先務矣
 幼學之士實用力於其間以躋夫聖賢之
 閭奧則固數公之所望也遂不敢讓而為
 之序云
 永樂二年歲在甲申至前三日安城周子
 治序

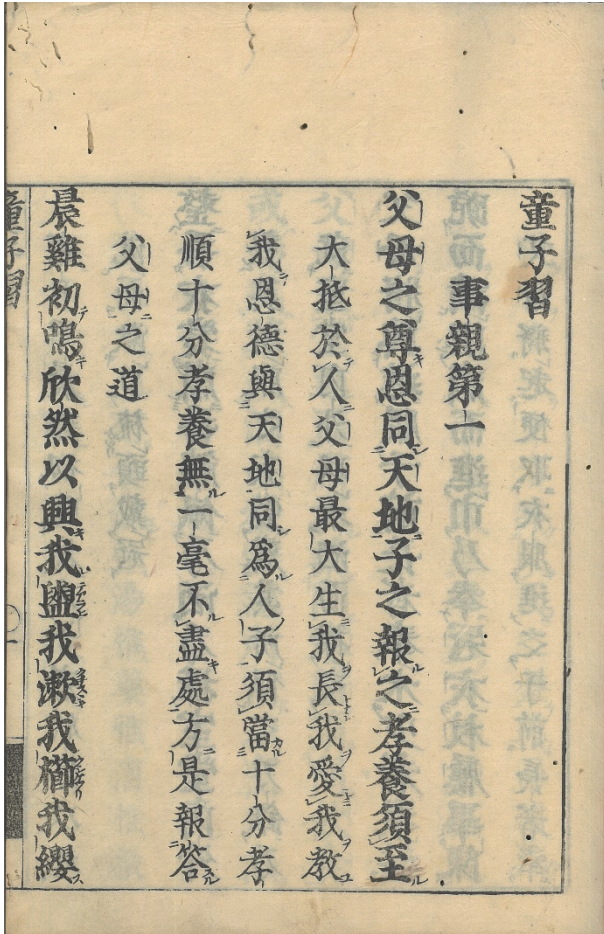
子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

童子習一卷

明 朱逢吉 撰 日本 淺見文次郎 訓點

享保十年 京師風月堂莊左衛門 刊本 1册

*事親第一



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

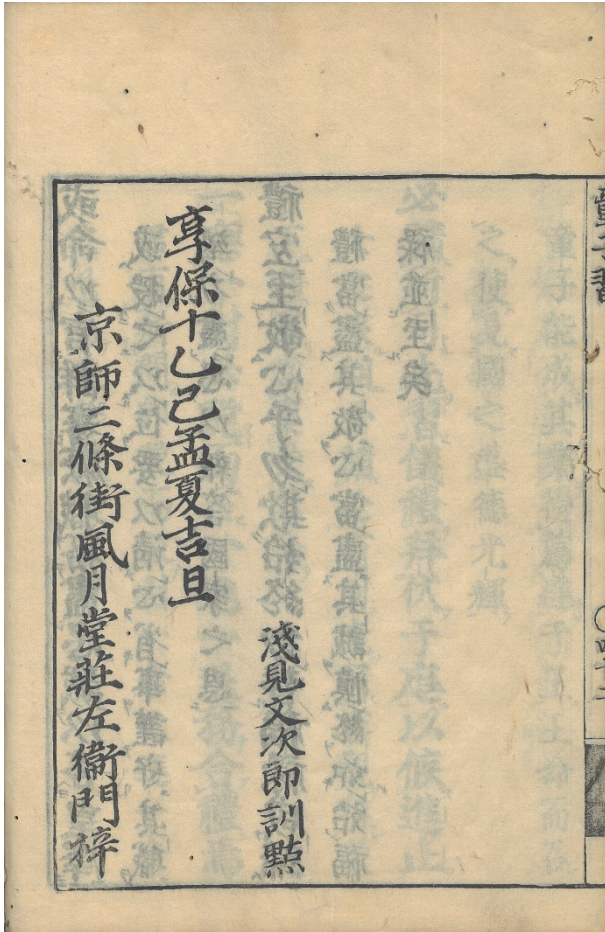
童子習一卷

明 朱逢吉 撰 日本 淺見文次郎 訓點

享保十年 京師風月堂莊左衛門 刊本 1册

*享保十乙巳(一七二五)

*京師二條街 風月堂莊左衛門



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

朱子社會法 一卷

宋 朱熹 撰 日本 山崎嘉輯 文化三年

皇都書林朝倉儀助 風月庄左衛門 同補刊本

1册

*文化三年(二八〇六)補刻



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

朱子社倉法一卷

宋 朱熹 撰 日本 山崎嘉輯 文化三年

皇都書林朝倉儀助 風月庄左衛門 同補刊本 1册



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

朱子社會法一卷

宋 朱熹 撰 日本 山崎嘉輯 文化三年

皇都書林朝倉儀助 風月庄左衛門 同補刊本 1册

*朱子社會法序 (山崎闇齋)

朱子社會法序

井田之法張子詳議之欲驗諸一鄉未就而卒朱子之時將行乃寢矣朱子嘗言程先生初年屢說猶冀井田封建到晚年又說難行想是它經歷世故之多見得事勢不可行然今不察地勢懸隔時宜頓殊而曰徑行之

者遠矣夫古者什一今者什四古之兵出于農故什一而用足矣後來兵農別焉則其什四視古之什一不為二三多矣僅二三之間耳故能考古法之意而得時措之宜則何難之有孔子曰其人存則其政舉其人亡則其政息若漢之常平隋唐之義倉則

近古之良法而民不被其澤者何哉人亡而政息也朱子本于隋唐制社倉法其法惠而不費所施之處雖遇凶年民不缺食人存而政舉者如此惜乎不得行此於天下也世云本朝文武帝之置義倉也漢路帝之數常平也當時得人焉爾乎蓋及聞

於後世矣予竊欲廣朱子之遺法賡寫通鑑之所筆蒐輯朱子之所記而冠朱子真於其首以行于世云
山崎嘉序

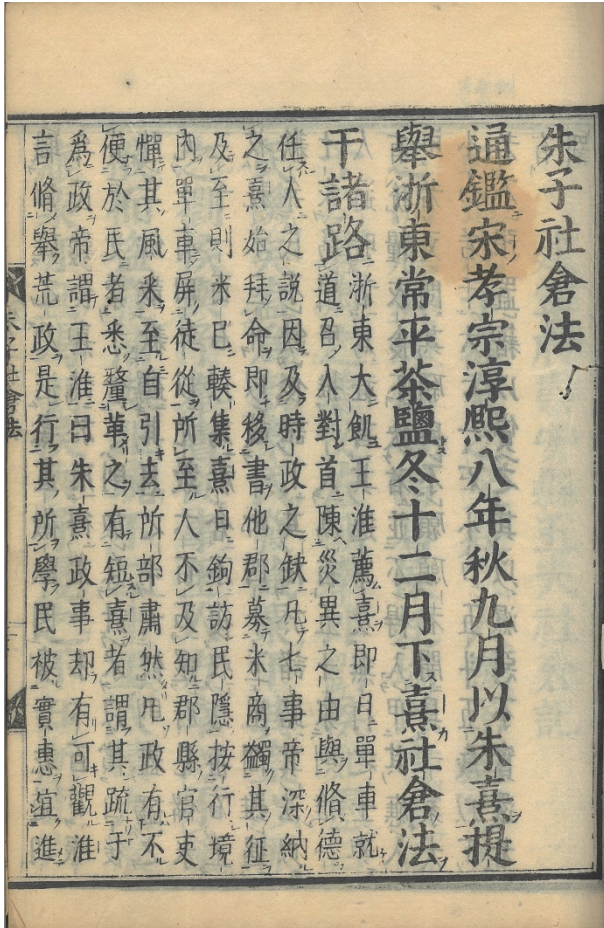
子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

朱子社會法一卷

宋 朱熹 撰 日本 山崎嘉輯 文化三年

皇都書林朝倉儀助 風月庄左衛門 同補刊本 1册

*朱子社會法



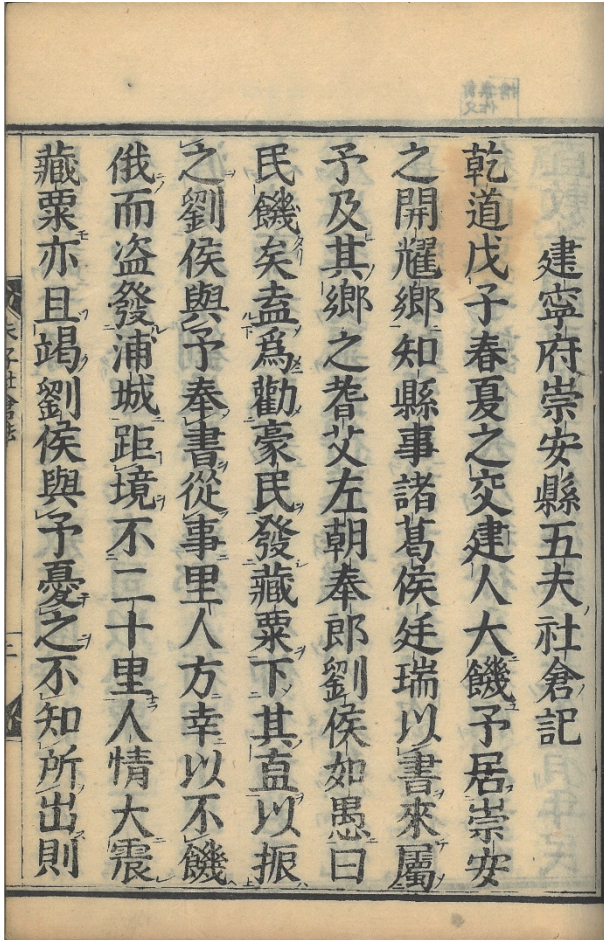
子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

朱子社會法一卷

宋 朱熹 撰 日本 山崎嘉輯 文化三年

皇都書林朝倉儀助 風月庄左衛門 同補刊本 1册

*建寧府崇安縣五夫社會倉記



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

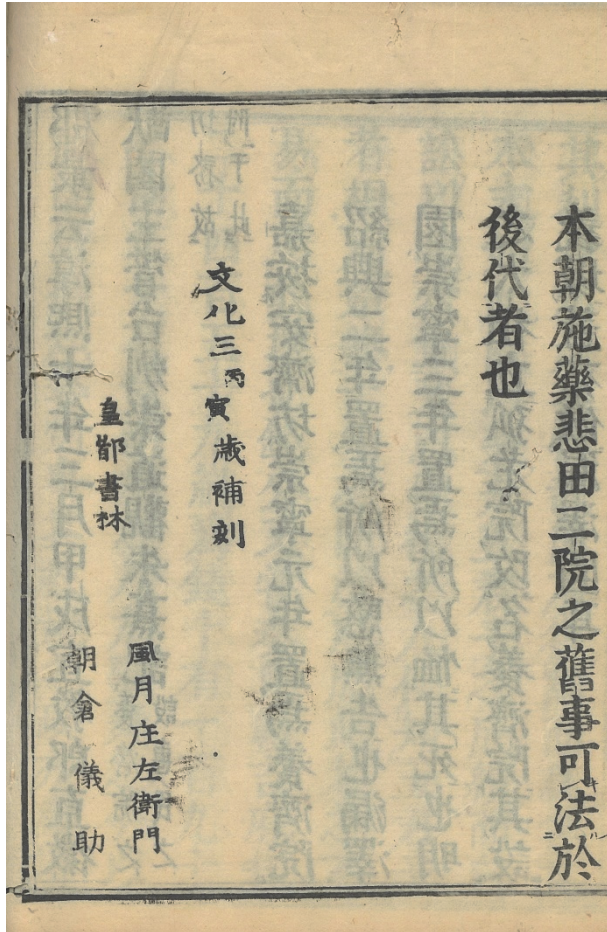
朱子社會法一卷

宋 朱熹 撰 日本 山崎嘉輯 文化三年

皇都書林朝倉儀助 風月庄左衛門 同補刊本 1册

* 風月庄左衛門

* 朝倉儀助



子部 儒家類 家訓勸學鄉約之屬

朱子社會法一卷

宋 朱熹撰 日本 山崎嘉輯 文化三年

皇都書林朝倉儀助 風月庄左衛門 同補刊本 1册

* 山崎闇齋先生門人編集略書目

* 出雲寺松栢堂

| | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---------------------------|-------------------------|------------|----------|------------|----------|----------|-----------|-------------|---------------|
| 御書物所 京都條通堀町 出雲寺松栢堂 | 垂加靈社叢書 自初映 三映 全册 | 城南雜錄 全 | 性論明備錄 全 | 經名考 全 | 朱子社會法 全 | 五友詩 全 | 敬齋詩 全 | 孝經刊誤 全 | 小學本註 全三册 | 山崎闇齋先生門人編集略書目 |
| | 同 說略 首書 無照 備考 | 近 思 錄 大本 小本 | 鬼神集 全 | 排釋錄 全 | 講學觀策錄 全 | 刑學標 全 | 道學標 全 | 八景詩 全 | 雲谷詩記 全 | 朱子行狀 全 |

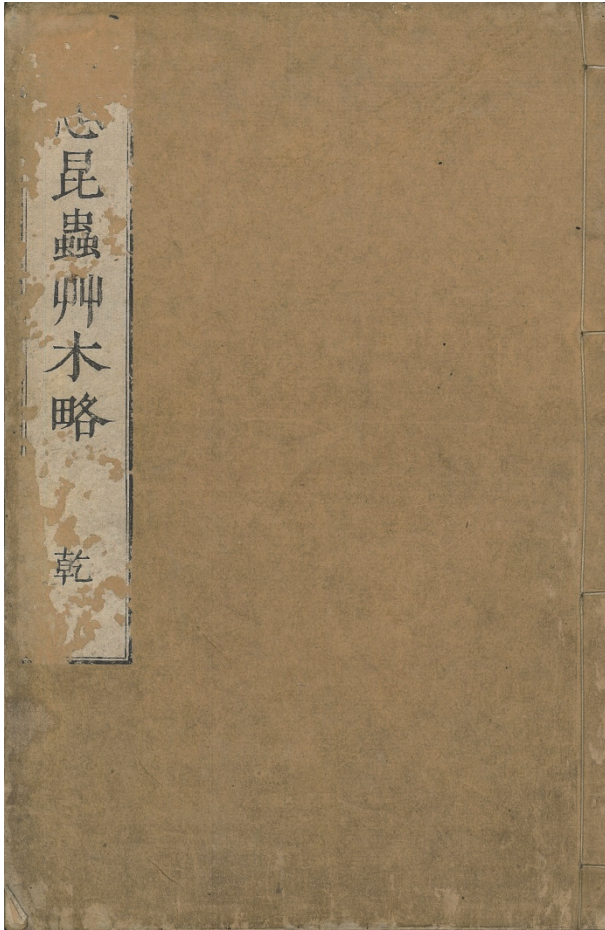
廿三七

子部 農家類 總說之屬

昆蟲草木畧二卷

宋 鄭樵 撰

天明五年 皇都書肆北村四郎兵衛等 刊本 2册



* 「通志昆蟲草木略」(題簽)

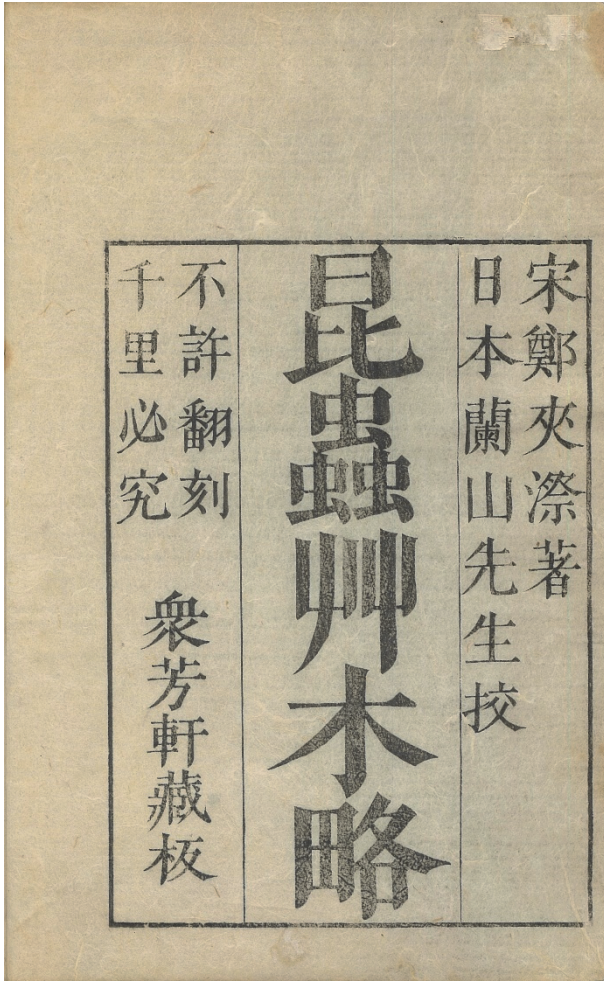
子部 農家類 總說之屬

昆蟲草木畧二卷

宋 鄭樵 撰

天明五年 皇都書肆北村四郎兵衛等 刊本 2册

*小野蘭山（二七二九〜一八一〇）



子部 農家類 總說之屬

昆蟲草木畧二卷

宋 鄭樵 撰

天明五年 皇都書肆北村四郎兵衛等 刊本 2册

*序

12741

昆蟲草木畧第一
序
學者皆務窮理盡性之說而以虛無為宗至於實學則置而不問當仲尼之時已有此患故曰小子何莫學大詩詩可以興可以觀可以羣可以怨邇之事父遠之事君多識於鳥獸草木之名其曰小子者無所識之辭也其曰何莫者苦口之辭也故又曰人而不為南宮伯也猶正牆面而面此苦口之甚也一部論語章他書不過一再推詳則言之又言凡十二處言揚門弟子有能學詩者則深喜之子夏子夏在孔

門末為高第至於論詩則與之至子夏又發起予之說者深居之也犬樂之本在詩詩之本在聲竊觀仲尼初亦不達聲至哀公十一年自衛及魯實正於太師氏而後知之故曰吾自衛及魯然後樂正雅頌各得其所以此言詩為樂之本而雅頌為樂之宗也其曰師樂之始開雅之記淫澤乎盈耳哉此言其聲之盛也又曰隔雅樂而不淫哀而不傷此言其聲之和也人之情聞歌則感樂者聞歌則感而為淫哀者聞歌則感而為傷惟雅樂之聲和而平樂者聞之而樂其樂不至於淫哀者聞之而哀其哀不至於傷此則雅

所以為美也綠漢人立學官講詩事以義理相傳是致猶依序詩以樂為樂海淑女之樂宮為不淫其色之淫哀為哀窈窕之哀傷為無傷善之傷如此豈備雅則洋洋盈耳之音安在乎臣之序詩於風雅頌曰風土之音曰風朝廷之音曰雅宗廟之音曰頌而不曰風風者教也雅者正也言王政之所由廢興也頌者美盛德之形容也於三南則曰周為河洛召為岐雍河洛之南潁江岐雍之南潁漢江漢之南二南之地詩之所起在於此周宋以來騷人墨客多生江漢故仲尼以三南之地為作詩之始而不曰南言化自

此而海於王豨離幽七月則曰王為王城東周之地而為幽豐西周之地七月者西周之風豨離者東周之風而不曰豨離離風臣之序詩專為聲歌欲以明仲尼之正樂臣之序詩深究為賦草木之名欲以明仲尼教小子的意然兩漢之言詩者惟儒生論義不論聲而聲歌之妙猶傳於野史經董草亦眉之亂禮樂淪亡殆甚魏人得漢雅樂即惟能教文王鹿鳴騶虞伐檀四篇而已太和之末又亡其三惟有鹿鳴至晉又亡自鹿鳴下後聲詩之道絕矣夫詩之本在聲而聲之本在興為賦草木不乃發興之本漢師之言

子部 農家類 總說之屬

昆蟲草木畧二卷

宋 鄭樵 撰

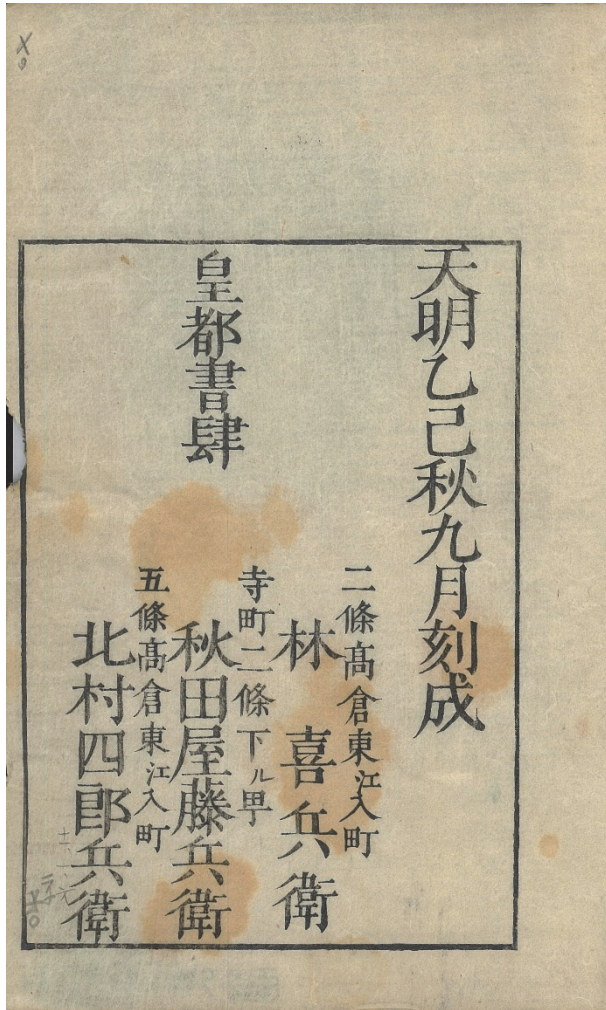
天明五年 皇都書肆 北村四郎兵衛等 刊本 2册

*天明乙巳(一七八五)

*林 喜兵衛

*秋田屋藤兵衛

*北村四郎兵衛



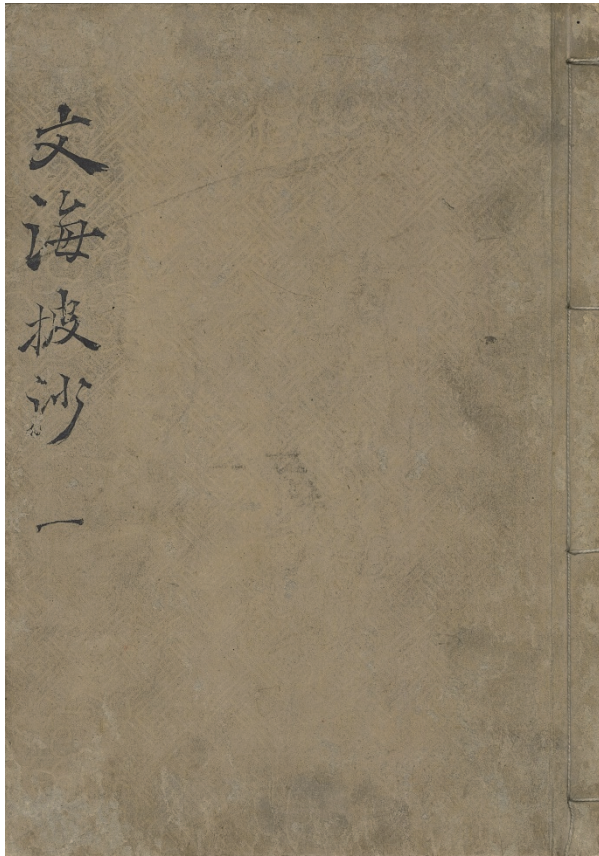
子部 雜家類 雜說之屬

文海披沙八卷

明 謝肇淛 撰

寶曆九年 皇都書林唐本屋吉左衛門等 刊本 4册

*寶曆九年（二七五九）



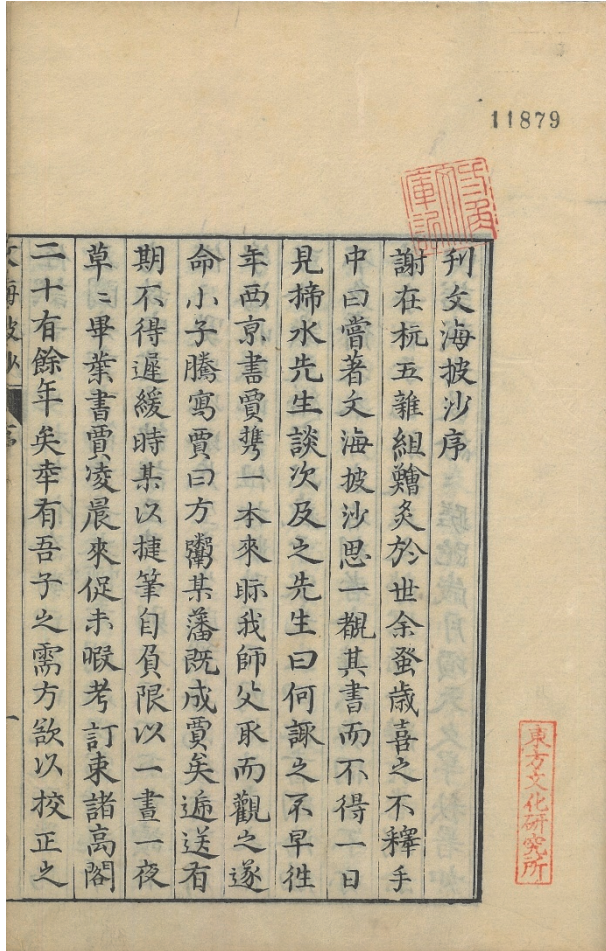
子部 雜家類 雜說之屬

文海披沙八卷

明 謝肇淛 撰

寶曆九年 皇都書林唐本屋吉左衛門等 刊本 4册

「三角文庫記」朱文方印

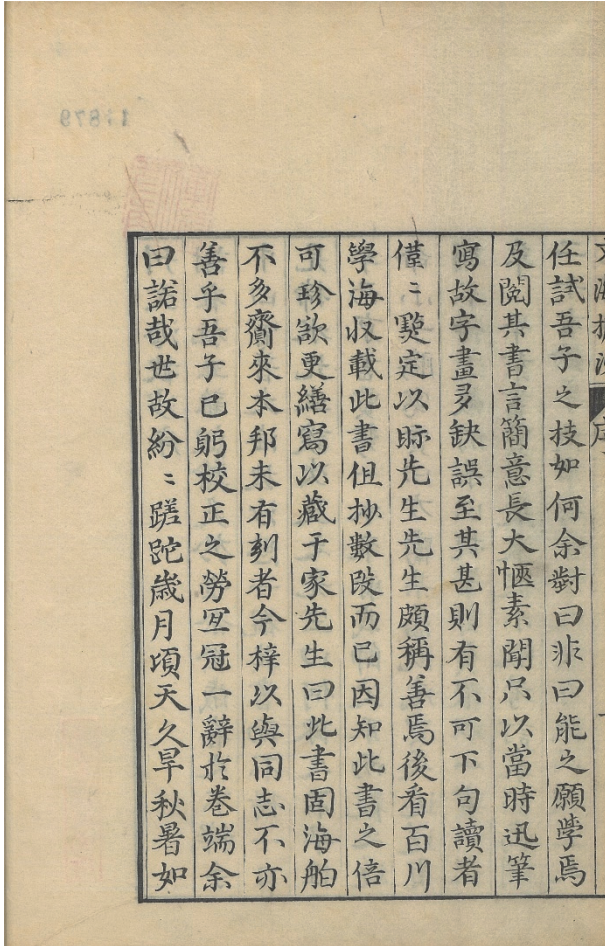


子部 雜家類 雜說之屬

文海披沙八卷

明 謝肇淛 撰

寶曆九年 皇都書林唐本屋吉左衛門等 刊本 4册



子部 雜家類 雜說之屬

文海披沙八卷

明 謝肇淛 撰

寶曆九年 皇都書林唐本屋吉左衛門等 刊本 4册

焚乎起視房玩炎忽龍毛骨烈雪耳邊鈴、恰
 如在深山幽谷澗石之間又如入金房曲室與
 神仙接回睇視之一片過雲雨沛然灑下芭蕉
 舞風蕙蘭逸等清麗滿懷昨日鴻鏤之苦如余
 為有可謂無兩印法性其時戶外履響凡、匪
 直也人果見精水先生來過欣然迎引共嘗新
 漚因投先師遺書載密督兒引文海說余悅焉
 憶昔日之言曰於乎余何初不能忘之深而今
 忘之頻故季隆室察有稿七八年前之謬邪

共發一笑近日閱說邪正續編大都涉獵昔日
 之難句讀者稍為屬讀問與鄙見暗合蓋無款
 遠之哉文有以矣因憶凡天下事得失每相倚
 寔塞翁之馬幾重加枝正聊叙其所從來校諸
 制則氏史世間未刊之書固多矣今獨奉、于
 此書者何也寧為其博通大雅獨推今古乎將
 為其識密鑿淵言獨與神會乎寧為其文章之
 奇獨歎泄方黃英華而形寫人紀倫則乎將為
 我夙用力之勉焉而警好之獨深乎寧為明氏

名家如空同觀徽秦龍華水或不足取而謝氏
 獨拔萃而涉精乎其或豈其然乎余喜在杭者
 益審其氣象爾夫訓詁文辭可以工致微言妙
 理可以深遠自得唯是氣象自然佳處難以力
 致與非文喜養浩默常使胸府開至大至剛緝
 紳有餘者安能至于此境邪然遂可以智識看
 不可以言說解具眼者自知焉嚴滄浪曰詩有
 三昧在杭所云、殆得其三昧者邪
 寔廷三年歲次庚午中秋後二日書於乙浦聽

潮卷中
 洞津魚目道人
 茅蘿新體寫

子部 雜家類 雜說之屬

文海披沙八卷

明 謝肇淛 撰

寶曆九年 皇都書林唐本屋吉左衛門等 刊本 4册

文海披沙序

萬曆辛亥孟秋澹園居士焦竑著

文海披沙序
昔魏齊澣知今高仲舒知古即世之博雅通人鮮能兼濟以彼非托喬而矚上代埋不曉而通選商自非保芭經籍博衆體俗朝帷不巷夜揭幾穿安能踴躍律要舉其芳藻者哉起部謝君在執起自晉安蔚為名士亦古亦史學不局於方體既鳴既捷激欲道乎強鳴凡所綴還余音傷而幸業焉莫不發言而宮商

春格筆而綺滄鋪其下蘇諸作業已起七子而駢書為八國之先報矣乃其裨編小史亦後過物成書燦發指掌抑何盛也後子界文海披沙列之函中而為余看序余涉獵一二若遊玄圃而得夜光汎滄溟而祖明月之藻余於矣紫雲括揭於明陞澹園心賦目之觀非僅味會稱業殘為小說之麗而已余渴研味此錦省三益焉蓋彈力錯餘隨方俟滌

即皇覽要畧未易擬倫而秘府太常靡不攝檢可以折辱言之乘望果於之履一世古與人所屬心而時事罕或蕪華乃遇具奇觀卷不踴記可以備當代之文獻廣方東之耳目二心認怪激奇曲士所儲而窮幽極異習羅不遺觸感廢之不虛徵中人之為善不藉弼刑默祥必教三也此非後高鍊齊涵今於士校寶難之多激鞅痠龍之奇卷何以辨此

且參其著作率以適意為宗浮心異委不以繁詞為貴澹？掘井可以及泉故妙因而得實在觀者善希矣而已余世聞篋簡以擬心神指隨塵而側海嶽鐘聽益者之敬竊附同心之言輒序簡編寄其仰止云爾
萬曆辛亥孟秋澹園居士焦竑著

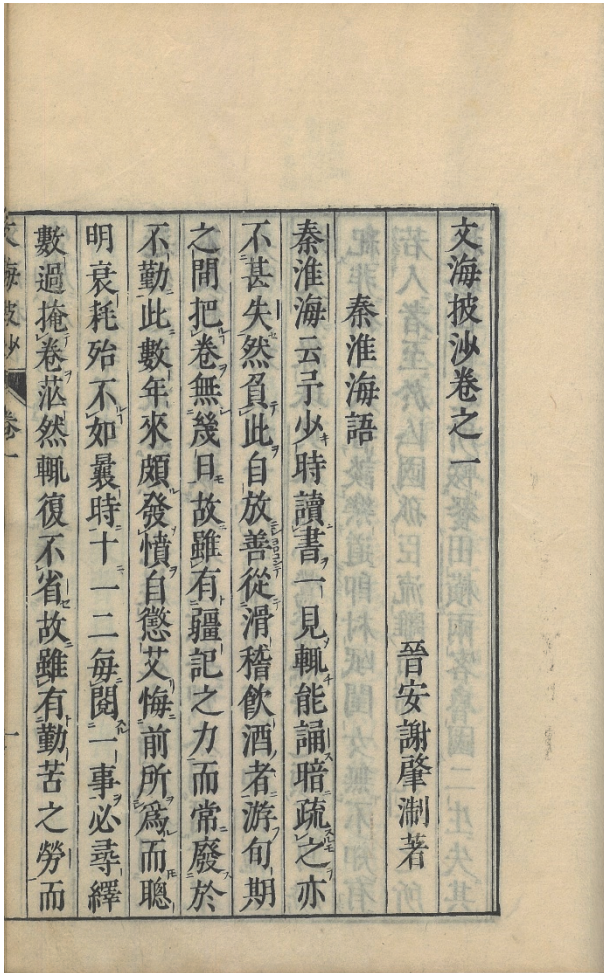
子部 雜家類 雜說之屬

文海披沙八卷

明 謝肇淛 撰

寶曆九年 皇都書林唐本屋吉左衛門等 刊本 4册

* 晉安謝肇淛著



子部 雜家類 雜說之屬

文海披沙八卷

明 謝肇淛 撰

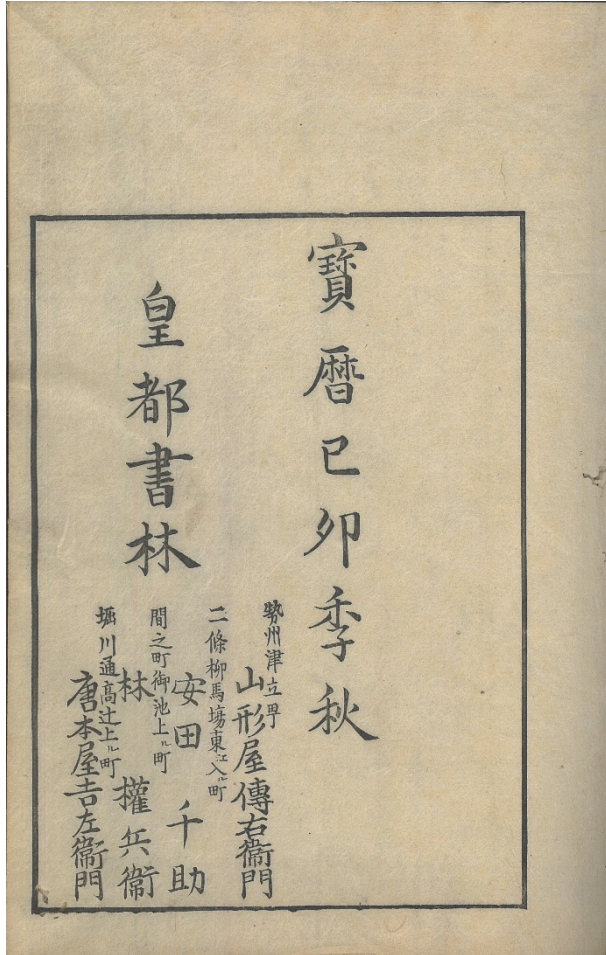
寶曆九年 皇都書林 唐本屋吉左衛門等 刊本 4册

*山形屋傳右衛門

*安田 千助

*林 權兵衛

*唐本屋吉左衛門



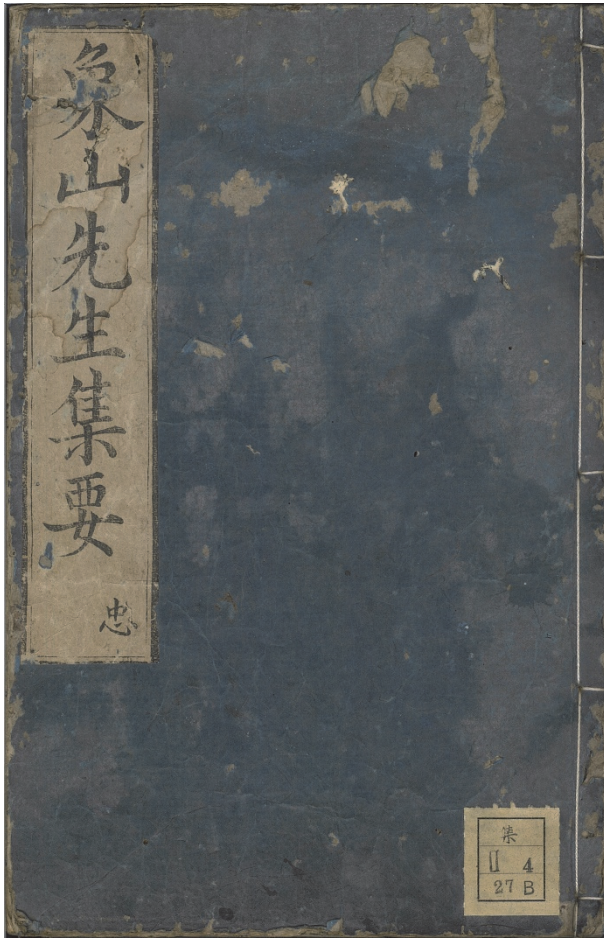
集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2冊

*五針眼訂



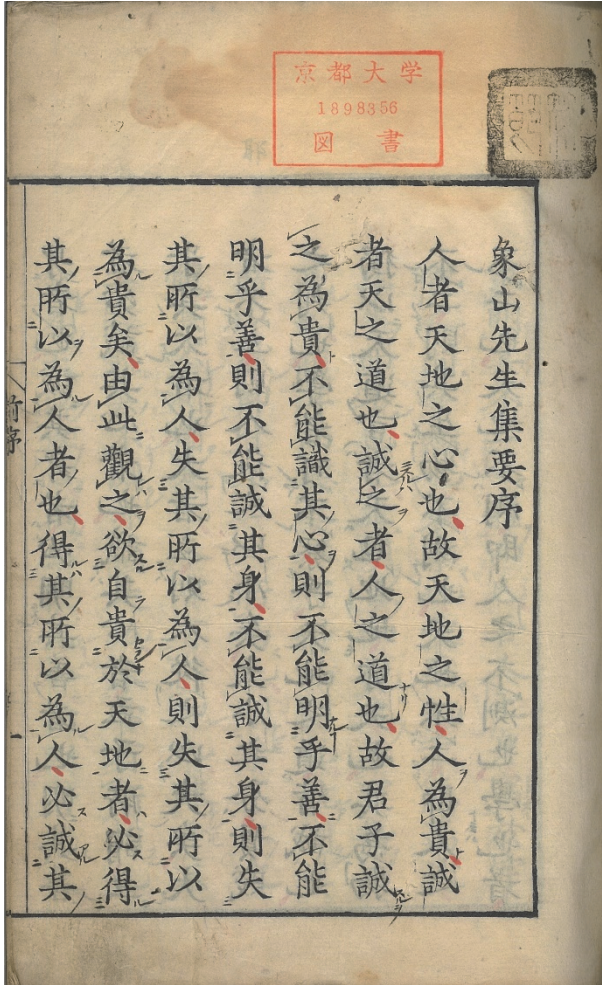
集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

「符節」墨印



集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

身者也。誠其身者必明其善者也。明其善者必識其心者也。識其心者孟子所謂立乎其大者也。大者立則人從之以大矣。大者不立則人從之以小矣。大小之分貴賤之判也。學者可不察乎。天地之道皆誠也。獨以天道言者。天包地地亦天也。其為物不二則其生物不測也。天地不二即人之不二也。天地不測即人之不測也。學也者。

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

耶

求明其不_レ止之體而已吾人之身處於宇宙之間善惡也哀樂也愛惡也千態萬狀生生而不_レ已也正明目而視之不可得而見也傾耳而聽之不可得而聞也執測其所_レ然即皆不二之所為也明乎不二之體其不測猶是也本嘗有所加也昧乎不二之體其不測亦猶是也本嘗有所損也然為天地立心為生民立命發明者能之

為天地立心為生民立命然後會之曰木人而昧者不能也則不_レ過專專士及之經藝藝然與宵越之類同視草木之類同春秋而其久斯小矣此學問之所自來也故中庸曰君子尊德性而道問學言由問學之功以尊其德性也若夫學問思辨行之際不以_レ是明乎不二之體而遂遂以道尊乎不測之用如推子指落花之續論

欲捨而無諸枝如獨振憐潭月之清顯欲取而懸諸樹是味夫花月之所從出者也謂之問學可乎學之宗傳孟氏而後中絕乃佛氏之徒明之河汾灑落實取諸彼以歸於此至象山陸氏益大光顯之以直按乎孟氏可謂豪傑之士矣惟時有朱子者為學教人讀書窮理今日格一物明日格一物此亦聖門既不廢然苟惟無本即味

免分其心於不測之地朱子蓋德夫禪之道兼事物而不敢及於明心不知心自吾心與禪無異吾心自不可不明猶寒不可不衣饑不可不食豈可以衣食與禪同而并棄之哉但既謂之明心則朱子就事就物之效節節俱不遺失乃為其耳彼猖狂自恣適已自便之徒亦如此自托以察其不覺視之晝夜白日漏室康莊者輩猶未

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

度豈及為齋哉予結髮從事朱學而隨聲
涉陸者久之心地無所發明因多倚困義
喪其生幸吾師近溪羅先生示予以明明
德之說豁然有省於平日所講習所行持
種種輕便而無難為者乃知吾身之有至
寶如此而奈何泯沒之也從此以讀陽明
之書知其解也又進而讀象山之書又知
其解也掩卷而歎曰道在其矣雖有他書

吾不暇讀矣然予先生書簡表重大子嘗
于剛之取其明白可誦者以便朱學然尚
苦於掛漏遠金雞卯朱君書來以邑人聶
念初公所編象山集要示請求序發而讀
之粲然有當於予心也蓋念初公見世之
學者未能卒業全書間有彙編又如予所
云掛漏故於是集惟酬應與溫與前後卒
見者概為剛前其關於學術政體者皆無

所遺其他雜著未甚切者存其略而已欲
使學者有收餘精專之益無宛雜失次之
患得象山先生之心矣先生嘗為荆門會
其政精明取大民愛而畏之蓋政教兼備
者今朱君為金鑿景仰先生吾知其不愧
矣矧又得鄉士夫若念初公者以時洛訪
乎夫象山先生接孟氏之脈以待後學念
初公理象山之錯以醒後人而邑人能成

之欲人心不明不可得也予未學何足以
序先生之集抑將以就正於念初諸公也
於此乎書
萬曆丁酉季冬吉旦
賜進士第嘉議大夫南京吏禮二部侍郎前
國子監祭酒翰林院侍讀學士掌南京翰
林院事司經詹事馮爾楨

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

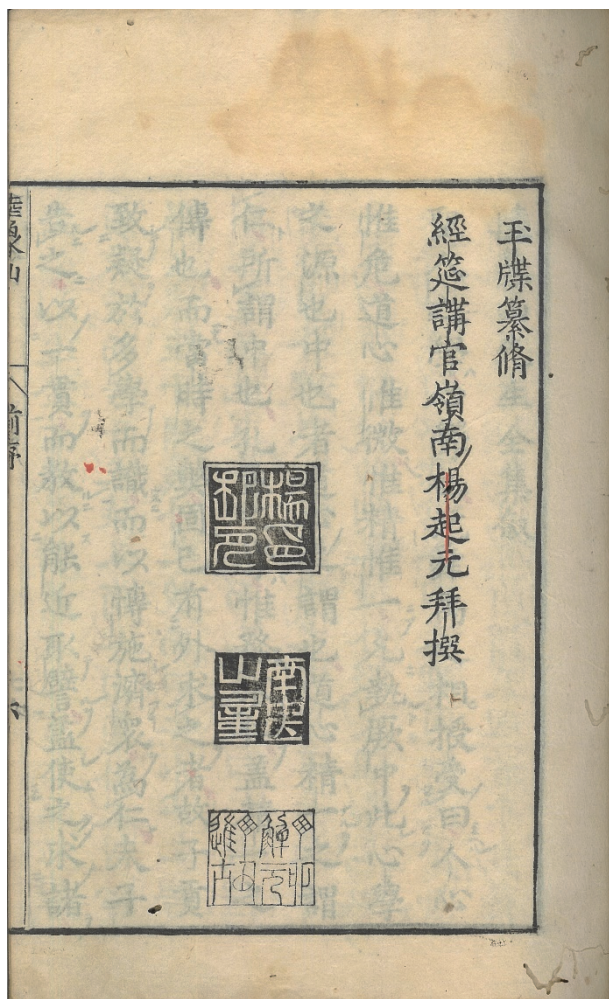
宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

「楊起元印」 印影模刻

「南夷之章」 印影模刻

「丁卯解元丁丑進士」 印影模刻



集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

*舊序 (王守仁)

陸象山先生全集叙
聖人之學、心學也。堯舜禹之相授受曰、人心
惟危、道心惟微、惟精惟一、允執厥中。此心學
之源也。中也者、道心之謂也。道心精一之謂
仁。所謂中也者、道心之學、惟務求仁、蓋精一之
傳也。而當時之弊、固已有外求之者。故子貢
致疑於多學而識、而以博施濟衆為仁。未子
告之以一貫而教以能近取譬、蓋使之求諸

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 增年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

*舊序 (王守仁)

其心也。迨於孟氏之時，墨氏之言仁，至於摩
頂放踵，而告子之徒，又有仁內義外之說，心
學大壞。孟子闢義外之說，而曰：仁，人心也。學
問之道，無他求，其放心而已矣。又曰：仁，義禮
智，非由外鑠我也。我固有之，弗思耳矣。蓋平
道息而伯術行，功利之徒，外假天理之近，似
以濟其私，而以欺於人。曰：天理固如是，不知
既無其心矣，而尚何有所謂天理者乎？自是

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

而後析心與理而為二而精一之學亡世儒
之支離外索於刑名器數之末以求明其所
謂物理者而不知吾心即物理初無礙於外
也佛老之空虛遺棄其人倫事物之常以求
明其所謂吾心者而不知物理即吾心不可
得而遺也至宋周程二子始領追尋孔孟之
宗而消無極而太極定之以仁義中五而王
靜之說動亦定靜亦定無中外無將迎之論

庶幾精一之旨矣自是而後看象山陸氏雖
其純粹和平差不逮於二子而簡易至截有
以接孟氏之傳其議論開闔時有異者乃其
氣質意見之殊而要其學之必求諸心則一
而已故吾嘗斷以陸氏之學孟氏之學也而
世之議者以其嘗與晦翁之有同異而遂詆
以為禪夫禪之說善人倫遺物理而要其歸
極亦不可以為天下國家尚陸氏之學而吳若

*舊序 (王守仁)

寔也乃所以為禪也今禪之說與陸氏之說
孟氏之說其書具存學者苟取而觀之其是
非同異當有不待於辯說者而顧一倡群和
剽說雷同如矮人之觀瓊宴知悲笑之所自
豈非貴耳賤目不得於言而勿求諸心者之
過歟夫是非同異每起於人持勝心使舊習
而是已見故勝心舊習之為患賢者不免焉
撫字李茂元將重刻象山文集而請于下

言為之序予何所容言哉惟讀先生之文者
務求諸心而無以舊習已見先焉則棟樑精
鑿之美惡入口而知之矣
正德辛巳七月朔陽明中人王守仁書

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

*舊序 (王宗沐)

陸象山集序

聖人之言心淵然無朕其涵也而有觸即動其應也佛氏語其涵者圓明微妙而秘之以為奇俗學即其應者拮據繳繞而離之以為博要之不能無所近而亦卒不可入何者其不能無所近者緣於心而卒不可入者遠於體也聖人者不獨括其涵懼人之求於微而不獨語其應懼人之求於遠故與致者心

之體也見廟與墓而興者其應也體無所不其則無所不感無所不感則無所不應因其應而為之文於是乎有哭擗齋素之等禮至聖帝之儀儀立而其心遠而儀非心也此所以為聖人之學也佛氏則從其應而造之以歸於無自墓與廟表與敬皆妄也而性則離是而亦不離於是者也倍學者非之曰此存也則造而煩其名數深其辨博而以為非是

則無循也然不知其感與應者既以玄遠空寂為性而其溺於名教辨博者又詳其末而忘其所以然子故曰禪與俗卒不可入者皆遠於體也聖人之言心詳於宋儒最後象山陸氏出真去世之所謂繳繞者而直指吾人之應心曰見蘆葦哀高宗廟歛者心也歸此心之真偽而聖學在是矣其於致力之功雖為稍徑而於感應之全則指之甚明而俗學

以為是禪也其所未及者名教辨博也嗟乎象山指其應者使人求其涵也佛氏過其應於無而象山指其涵於應以是為禪其則為聖人者其必在各教辨博乎以儀為心亦惡夫哀歛之無從也是集刻於奎齋而歲久漫漶德安吉陽何先生檢江西之明年至闈理學以淑士類乃歐列馬而命沐為序終不獲周既象山言也特者標而繼之世之知者果

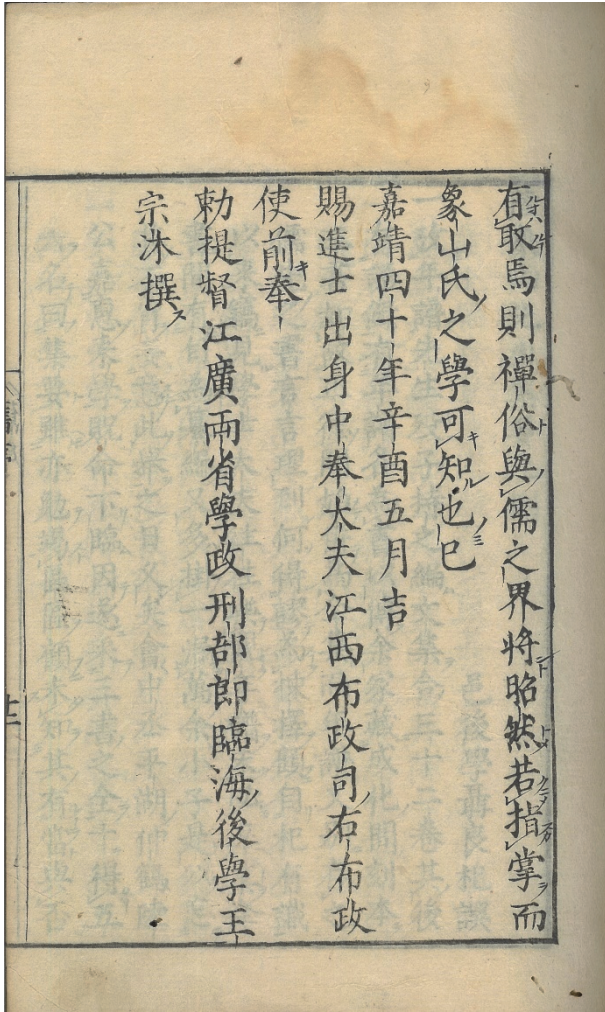
集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 增年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

*舊序 (王宗沐)



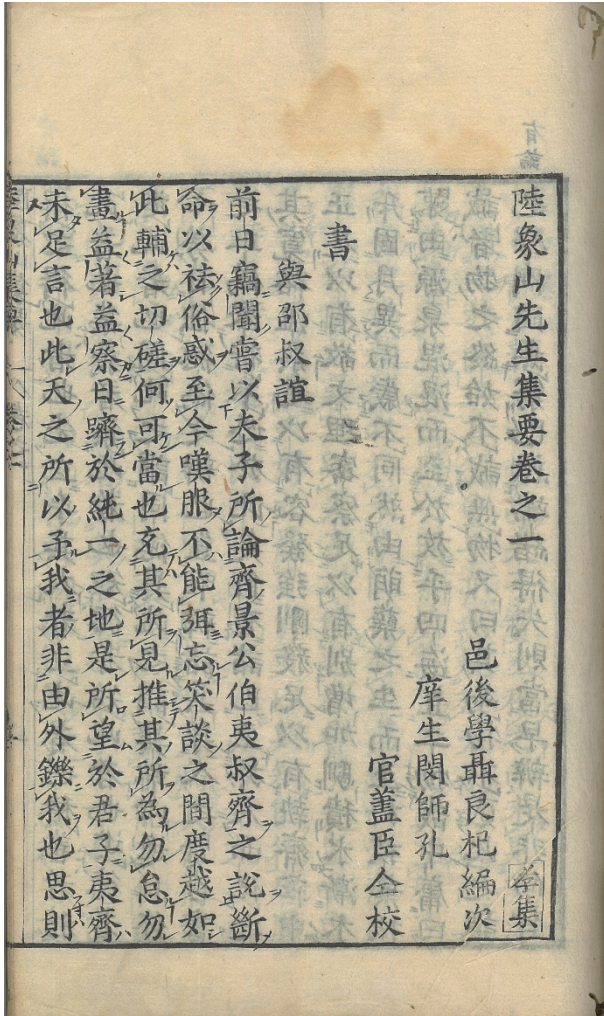
集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

* 邑後學聶良杞編次



集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

*後序 (聶良杞)

象山先生集要後叙
象山先生集要成良杞既述叙次之繇以請于
中丞仲鶴先生無何邑令朱君指捧亟梓已於
事而竣矣以予不敏於先生之學茫未有聞安
得以臆妄次其論說也雖然先生集中大旨炳
如日星其要使人復其本心亦云先立其大
其說一出孟氏以跡莫廷執中孔門求仁無異
旨者而世之人以其盡去一切繳繞歸之易簡

遂惑之曰禪即有諒之者則曰沈而為禪豈孟
氏之學非邪而陽明先生之序先生集也上溯
虞孔之宗下逮周程之緒辨心與理之不容二
儒與釋之所由分而斷之曰陸氏之學孟氏之
學也誠短言矣而議者輒又曰陽明附陸而禪
者也則亦不及諸心之過爾夫先生所稱易簡
非徑也易知簡能吾所受衷于天地本如是然
而又人工夫未易言也是故耳自聰日自明事

父事兄自孝自弟本無少闕何俟他求然要在
自立毋為利欲昏也懲忿窒慾本之知學知學
者懲窒與就事就末者不同然未嘗不切已自
反也發明為學端緒是非可以立辨然升高自
下陟遐自邇未可以第一步遽謂千里也不識
不知順帝之則晏然殊無一事然從來最動理
會不志翼翼昭事也凡此皆先生所謂一陽為
主於內亦所謂刀鋸鼎鑊學問集中一字句皆

是也而又何病焉今去先生之世日遠而其學
亦日光顯微獨二三君子表章之力蓋亦斯道
之在宇宙自有不容限隔者予又竊睹世儒之
多其途徑也譚虛寂者曰知性而或昧毫釐之
辨懲知見者曰本天而益競心性之爭此夫非
不各有深詣顧未知其於虞孔之宗何如夫欲
明虞孔之宗以宣翼吾道當使正學正言長明
於天下而後斯人不昧于鄉狎予是以不度淺

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 增年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

*後序 (聶良杞)

陋妄意此編以嚴師保于昕夕期與吾黨共
臚焉耳向微中丞公與令君嚮意甚盛烏能及
此乎

萬曆丁酉仲秋日朝列大夫福建布政司叅議
前雲南督學僉事禮科給事中邑後學崇陽聶
良杞子實父誤

集部 別集類 南宋之屬

陸象山先生集要七卷 附年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

*後序末(朱錦)

金谿之學為

陸先生建安無元晦青田無子靜陸先生自道

若此先生文集語錄年譜遞分遞疑合與款今遞刻遞

燬縣所藏則嘉靖中善本云乃先生故不著

述微言僅程文書問問程文書問而卒業鮮

矣邑少叅聶念初公冥心此學庚為集要

撫臺平湖陸翁屬錄之梓集要九八卷始事于

萬曆二十五年六月逮月而竣與鼎建三陸

集部 別集類 南宋之屬

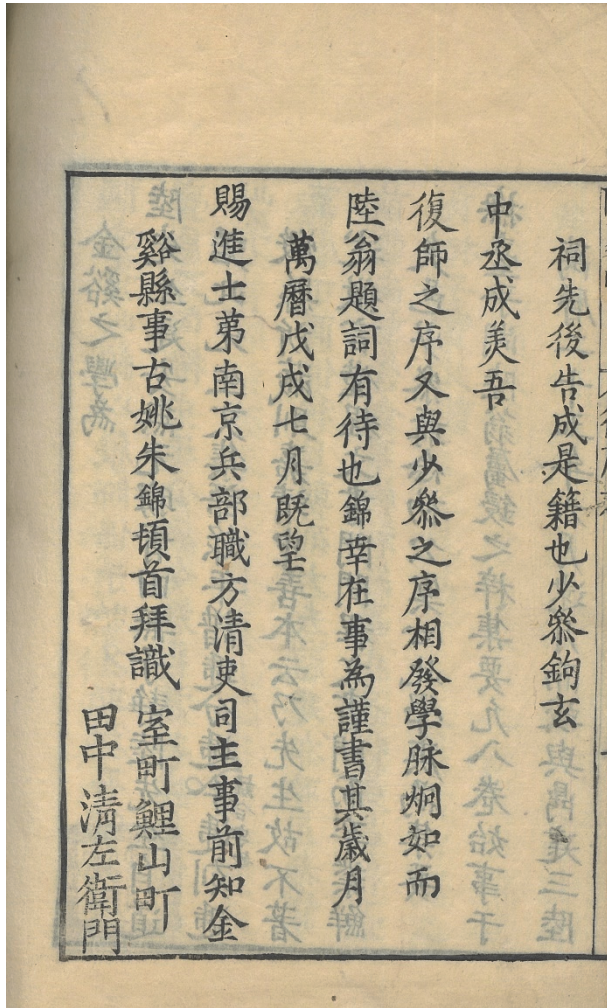
陸象山先生集要七卷 增年譜一卷

宋 陸九淵 撰 明 聶良杞 輯 併撰年譜

田中清左衛門 刊本 2册

室町鯉山町

田中清左衛門

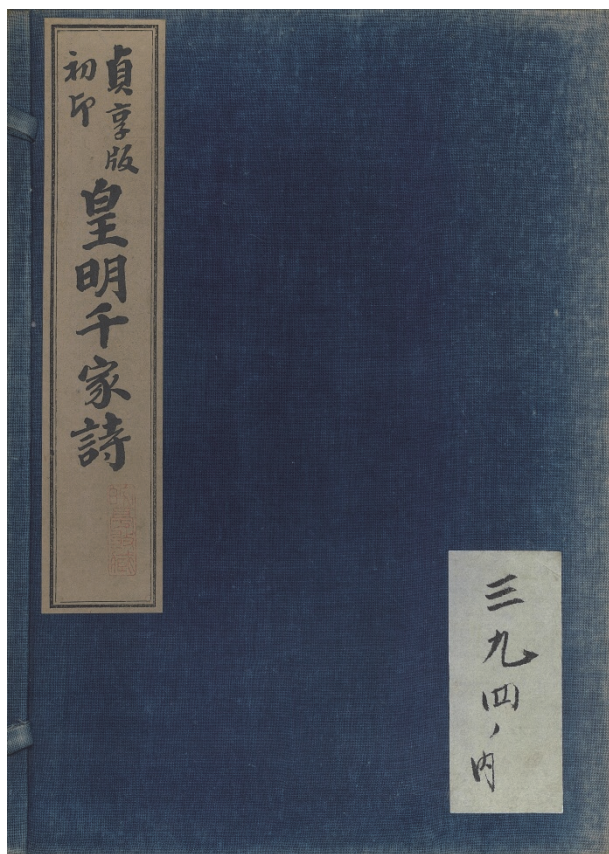


集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册



「貞享版初印／皇明千家詩」(帙題簽)
「皎亭收臧」朱文長方印(内野皎亭)

集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册



集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本

4册



「皎亭改藏」朱文長方印（内野皎亭）

集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册

*萃慶堂刊



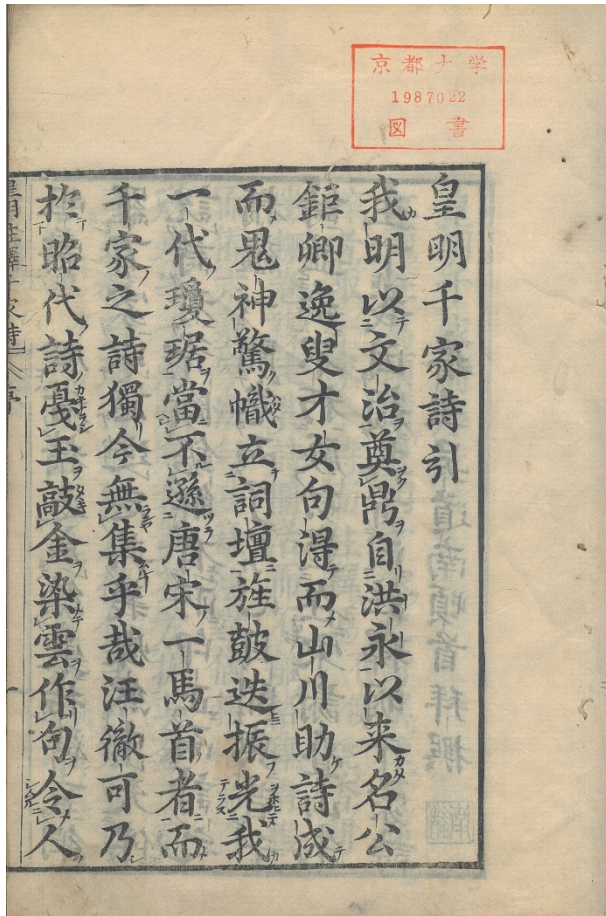
集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册

*皇明千家詩引 (吳道南)



集部 總集類 各代之屬

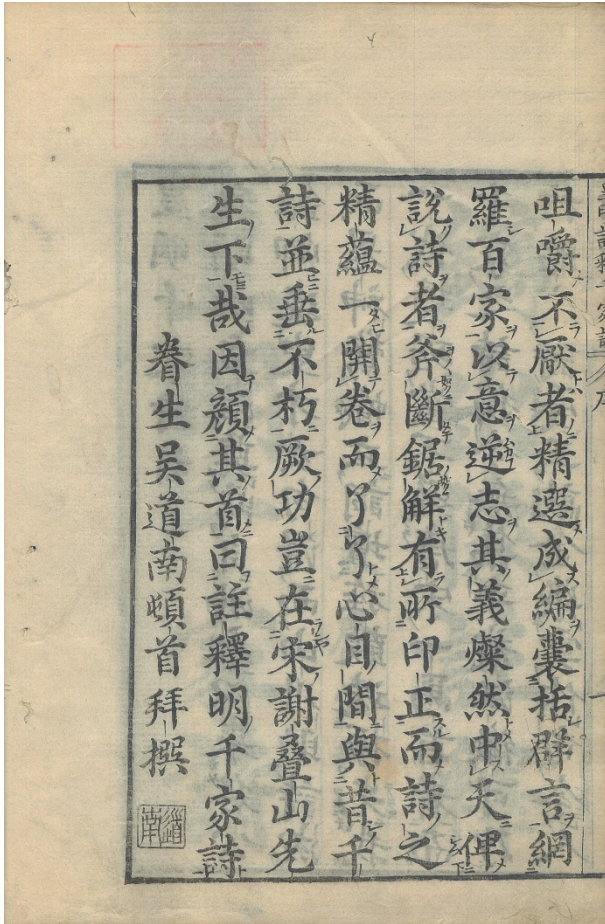
新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册

*「道南」印影模刻

*吳道南（一五五〇～一六二四）



集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册

*皇明千家詩序 (瀧川昌樂)

皇明千家詩序
 汪萬頃讀皇明千家之詩集，揆其統
 緒者，取一家一詩，而註釋焉。不依 燒香開
 坐撫卷，復其詩，而語清，而不離格律，清雅
 而備六義，字法句法，章法對偶，精確而百
 鍊成字，千煉成句，抽其芬芳，振其金玉，觀
 其透徹玲瓏者，七縱八橫，信手吟來，頭頭
 皆道也。所以不離其道者，有以於茲，恭惟大

明自日旁，有一月一星之瑞祥以來，太祖
 求古今遺書，興起唐虞三代之治，而求章
 六經之祖，真開闢聖賢之學海，以文教興
 太平，有功於後世，止於奢遊，藝以節儉為
 寶，宮殿新成，不施繪畫，代之書，大學衍義
 於帝廟，壁間以備朝夕之鑒，戒廣求天下
 之賢，六德六藝兼用，賢能並舉，朝燕雅茲
 別國有忠孝侯之詞，臣墨客應文學者考

之經，簡以觀其義，以詩賦試之者，為登科
 第，是以明儒詩文兼道，德交馳，華不流，浮
 誇正而飽也。且徐積劄曰：昔桓譚學賦於
 揚雄，令讀千篇，蓋所以廣其資，亦得以
 參其變也。然須熟讀六經古詩三百篇，可
 以陳其源，又粹百卷，雄高可以厲其氣，雖
 臨深，咏可以彈其思，李杜二集，枕藉觀之，
 然後博讀唐十二家詩集，及有宋梅蘇

黃陳之四集，而法經，而極音韻，古以辨辭
 韻，釀胸中久之，自然滲入矣。是明儒為詩
 學之捷徑，說詩道亦雁子蓋叢繩之前，眾
 為天浩，嚼爛黃之後，挾叢雲之與詞，而後
 及擊壤康衢之謠，演於卿雲南風之歌，而
 後製作於國風雅頌三千篇之體，皆文章
 王傳易於商瞿，傳春秋於子夏，說詩於卜
 商，故周詩有六義，而風雅頌為之，經賦比

集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册

*皇明千家詩序 (瀧川昌樂)

興為之辨純而成章感思而勸善其微顯
剛幽有法也凡古今詩風雅頌既已而為
離騷四變而為沈宋之律詩至律詩出而
後詩與法皆大變以至宋益益巧而無復古
人之風呼明人有唐詩唐人有唐詩易地
皆然乎哉思夫唐有白俗殘雪沈詩之誹
謗宋有肩曲書百刺識之詩禍元有浮華
生吞活剝之臭名明有暴玉敲金滌雲之

芳華詩思無古今妙悟無東西又有沈屈
寸有所長於我日東亦如此豈是古非今
哉紀自貫氣委由空揚因字而以可通其
域隨柳絮驚花挺數撥草聲風葉寒燒
雨吾分內事而不難也論其心理則芥子
界網須彌毛頭裏吞巨海丁心空則食乾
坤直六合豈難哉嗚呼無別處盡之才至如
琴書之辨則何論哉惟千載揚子禁出知

揚子雲知於鑽輪而掛苦之效不待於教
而有所自知效引而使之體類而長之雖
不中不遠宜不流於雕蟲篆刻之末嗚呼
由誰以得其意則在乎人矣和璞甫斲不
獨顯待其人發其光輝此明詩若不遇汪
氏須委蔓草然汪氏得群賢之玉詩於石
中集錄之註解明而辭約意闡引證俱據
靡括諸家涉獵經苑品藻於人物圖畫於

花鳥揀四金七玉之二體分四時之品門
使擊人雲車風馬馳於雪月風花之聲景
不出卷而觀百家之錦繡不出乃而拾千
家之瓊藻因而有千家詩之名共有賢古
人者可謂能解人願者也世謂詩人窮知
能詩夫窮臣寡婦憂思感憤其與怨刺則
寫人情之難言是非詩能窮入窮窮者而
後工也者不謂賢極氣之事歟嗚呼流落

集部 總集類 各代之屬

新鐫註釋出像皇明千家詩四卷

明 汪萬頃 輯注

貞享二年 洛陽淺野久兵衛 刊本 4册

*皇明千家詩序 (瀧川昌樂)

間吐忠憤感時恨別有一聯八意句是亦
窮而後工者不詩聖老杜歟至皇明詩賢
交出於醉花間遊咏月下或達而後工或
窮而後工者也天無心而生萬物如鸞
翫然也人亦無心真空而此萬善如珠
然也無心而思無相者真空妙智也其真
妙智在何處對木求花無花葉天真妙悟
在自家自知而不待求他夜水中愁渴者

走何人識一貫之所在吟喙同時之機是
則詩悟之妙處豈以言語譯入哉在明朝
無心而此詩談玄者為誰乎王守仁也朱
伯宗也劉伯溫也宋景濂王世貞茅坤薛
瑄欽英汪徹可是其人也迹世慕之如鳥
鱗風復元明之詩道如花如拾奇花之英
掇而玩之論高品則色不如香論逼真則
香不如色元詩有色無香且如解脫繩今

色香兩全而備華實有裂竹發者不明詩
歟是千家一人一詩者千萬人之花也可
使食無肉不可為無此花所謂書滿勝色
潘詩勝錢錢難對此花則勝於腰纏萬貫
騎鶴上揚州乎不更一日無此君侯之
潛加後顯命工鑄梓壽其傳忘蘇醜作序
以冠篇端可
洛陽又惡門下後學
貞享二年春穀旦 瀧川非龍野見樂拜書

皇明千家詩序
瀧川昌樂

藏書印索引

い

猪飼敬所翁遺書 11

う

梅家藏書 36

く

愚山書屋臧板 19

こ

皎亭改藏 11, 78

皎亭收臧 76

さ

佐藤氏臧 1

三角文庫記 54

し

子鳳 20

せ

成□□ 27

た

待鶯堂圖書印 11

な

那須印 25

ふ

藤澤印信 1

符節 61

文友館記 16

ま

松本氏圖書記 26

ORIENTAL STUDIES REFERENCE SERIES

No. 29

Ten Selected Copies of Old Chinese Books
Reprinted in Edo Japan

CENTER FOR INFORMATICS IN EAST ASIAN STUDIES
INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES
KYOTO UNIVERSITY

2021

〔東方學資料叢刊 第29冊〕

和刻本十選

編者 矢木 毅
発行日 2021年6月30日
制作者 明文舎印刷株式会社
発行者 京都大學人文科學研究所附屬東アジア人文情報學研究センター
〒606-8265 京都市左京區北白川東小倉町47
Tel. 075-753-6996 Fax. 075-753-6999
<http://www.kita.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>

ORIENTAL STUDIES REFERENCE SERIES

No. 29

Ten Selected Copies of Old Chinese Books
Reprinted in Edo Japan

CENTER FOR INFORMATICS IN EAST ASIAN STUDIES
INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES
KYOTO UNIVERSITY

2021